

東亜合成グループ
CSR報告書
2008



化学事業を通じてより多くの人々と より多くの幸福を分かち合う



東亜合成グループは、従前より「環境報告書」、「環境・社会活動報告書」を発刊し、環境や社会貢献活動に対する当社の取り組みを皆さまにお伝えしております。今年からはこれを一段進め、環境面のみならず当社グループが広く社会的責任を果たすために取り組んでおります活動を皆さまにご理解いただくことを意図し、これらの活動をまとめた「CSR報告書」を発行することといたしました。

当社グループでは、社会貢献、企業倫理、環境・安全の3点を柱としてCSR活動を推進しております。本年からはグループ全体のコンプライアンス、内部統制、社会貢献活動、環境・保全活動を統括し、強化すべく「CSR推進会議」を設置し、グループ一丸となってステークホルダーの皆さまとのかかわりを強く意識した経営を目指してまいります。

この「CSR報告書」を皆さまへのより良い情報伝達ツールとするため、ぜひ本報告書をご高覧いただき、当社へのご理解を深めていただくとともに、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。頂戴しましたご意見は当社CSR活動に活かすとともに、次回の報告書に反映させ、より充実させてまいります。

これらの活動を通じて、ステークホルダーの皆さまの信頼にお応えし、当社グループの企業理念である「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」を実現してまいります。今後とも、当社に対しましてより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長

山寺 炳 秀

編集方針

当社は、2001年より環境報告書を発行しており、2006年からは環境・社会活動報告書としてその報告範囲を拡大してまいりました。これをさらに広げ、本年よりCSR報告書として、当社グループのステークホルダーとのかかわりをまとめることといたしました。このような方針から、当社グループのCSRの取り組み姿勢を総括してご説明したうえで、お客様、社会、株主・投資家、取引先、従業員とのかかわりに関する活動を分けて取り上げ、報告内容の充実を図りました。

読者の皆さまにおかれましては、ぜひ同封のアンケートにご回答いただき、当報告書紙面のみならず、当社CSR活動に対しましてご意見を賜れば幸いです。今後とも、皆さまの温かいご支援を糧にグループCSR活動の充実に取り組むとともに、よりわかりやすい報告書の編集を目指してまいります。

2007 環境・社会活動報告書からの改善点

- グループをあげてのCSR報告書とするため、各種数値を極力、グループ全体の数字とすべく編集いたしました。
- 当社グループの事業内容の理解を深めていただくため、グループの主要製品をわかりやすくご紹介するページを新たに掲載いたしました。(P8.暮らしの中の東亜合成グループ)

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」2007年度版
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」第3版

対象組織

本報告書は東亜合成株式会社および国内のグループ会社を対象としています。掲載した環境データはP.43「事業所およびグループ会社のCSR活動紹介」に記載している製造に携わる会社・事業所を対象に集計したものです。

なお、工場名のみ表記は東亜合成株式会社の事業所を指します。

対象期間

本報告書に記載したグラフや表は2007年1月1日～12月31日の1年間の集計データです。

ただし、化学物質の排出量については、PRTR法と整合性をもたせるため、2007年4月1日～2008年3月31日の1年間のデータとしています。また、掲載記事には一部2008年度の活動も含んでいます。

発行時期

2008年8月 次回：2009年6月（予定）



ホームページ上に詳しく掲載している情報は、報告書内にWEBマークを明記しています。

<http://www.toagosei.co.jp/>

その他会社情報についても当社ホームページをご覧ください。



CONTENTS

- 2 会長あいさつ
- 3 編集方針
- 4 トップメッセージ
- 6 東亜合成グループの概要
- 8 暮らしの中の東亜合成グループ
- 10 人と地球に優しい技術・製品の開発

CSRの取り組み

- 12 CSR経営の考え方
- 14 CSRの基盤

ステークホルダーとのかかわり

- 20 お客様とのかかわり
- 22 社会とのかかわり
- 24 株主・投資家とのかかわり
- 25 取引先とのかかわり
- 26 従業員とのかかわり

環境・安全への取り組み

- 30 マネジメントシステム
- 32 環境コミュニケーション
- 33 環境会計
- 34 事業活動と環境負荷
- 35 地球温暖化防止への取り組み
- 36 環境負荷低減への取り組み
- 39 循環型社会への取り組み
- 40 保安防災・安全衛生への取り組み
- 42 化学物質の適正管理

サイトレポート

- 43 事業所およびグループ会社のCSR活動紹介
- 46 第三者検証意見書
- 47 東亜合成の生い立ち

お問い合わせ先

本報告書の内容に関するご意見、ご質問などがございましたら、下記までご連絡願います。

東亜合成株式会社

〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号

IR広報室

TEL 03 (3597) 7284 FAX 03 (3597) 7217

化学メーカーとしての社会的責任を 着実に果たすことで、将来にわたって 信頼される企業であり続けたいと考えています

有用な化学製品をご提供すること— それが、私たちの使命です

東亜合成グループは、「アロナルファ®」の商品名で親しまれている化学メーカーです。「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念に基づいて、有用で魅力ある化学製品を消費者や企業のもとへ安定的にお届けする——これが、私たちに課せられた使命です。

このような考え方のもと、経済性だけにとらわれることなく、コンプライアンスと安全の確保を大前提に、経済性、社会性、環境性の3つの側面をバランスよく追求し、社会の皆さまとのかかわり、環境への配慮を重視しながら、持続的な発展を目指しています。

PDCAサイクルをまわしながら、 活動を改善しています

私たちが進めるCSR活動の柱のひとつに、環境保全をはじめとする「レスポンシブル・ケア」（以下RCと

略）があります。RCとは、私たちのような化学物質を扱う企業または企業グループが、化学物質の開発・製造・物流・使用から、最終消費・廃棄に至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会とのコミュニケーションを行う活動のことをいいます。

RCの基本は「自主管理」です。つまり、当社グループの社員一人ひとりが、環境と社会に対する感受性を高め、それぞれの業務の中で責任ある活動を着実に実践していかなければなりません。

たとえば、研究部門では、製品の研究・開発段階から、原材料の安全性、製品の危険有害性を十分に評価する必要があります。また、製造プロセスの設計においては、安全面、環境負荷の軽減に優れたものとする、製造から物流の工程においては、CO₂の排出抑制、化学物質の排出量低減、廃棄物の排出量削減に取り組むなど、それぞれのセクションで各人が確実な取り組みを行わなければなりません。

この活動を円滑に進めるツールとして、ISO 14001をはじめとするマネジメントシステムを活用しており、年度ごとの改善目標を定め、実施計画を策定し、活動の結果を振り返る、改善のサイクルを確実に回しています。

また、当社は1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会が設立された当初から参画し、RCの取り組みを進める中で、リスクマネジメント、環境保全、安全、品質管理、顧客対応といったCSRにおける個々の重要な側面に対する体制の強化を図ってきました。今後の活動のレベルアップに向け、最近は特に、活動の進捗状況のチェックと、その結果を踏まえたアクションを強化し、スピード感のある活動に努めています。



次なるステージへの飛躍に向けて、 CSR活動の推進は大きなテーマです

当社グループでは、2008年に2010年を最終年度とする新中期経営計画「ALL TOA 2010」を策定しました。

新中計においては、前中期経営計画で取り組んだ「高付加価値製品へのシフト」をさらに推進するとともに、新たな製品や事業の創出を図り、成長力と収益力の向上に取り組む、6年後には売上高3000億円規模の企業グループへ成長することを目指します。

この新しいステージへの飛躍においても、「CSRの推進」は経営の基盤となる重要事項であり、グループをあげて取り組む必要があります。

これまで、環境面の取り組みにおいては、省エネルギー、化学物質の排出削減、廃棄物の削減など、各項目で目標を順調に達成してきており、成果は着実に上がっていると手応えを感じています。今後は、個別の目標が非常に高いレベルのものとなるため、その達成はより困難になるでしょう。しかし、私たちは歩みを止めません。目標達成に向けてチャレンジを続けます。

また、海外のグループ会社においてもCSRの取り組みを進めていますが、その活動を一層強化し、東亜合成グループとして、海外グループ会社も含めた一体的なCSR活動を進めていきたいと考えています。

企業がその事業活動を継続する限り、CSRの実践に「終わり」はありません。社員一人ひとりが冒頭にご紹介した当社グループの企業理念を実行し、企業市民として社会への責任を着実に果たすことで、社会の中での存在感を向上させてまいります。

適正な情報開示を実践して、社会から信頼 される企業であり続けたいと考えています

従来から私たちは、経営の姿勢、事業展開をはじめ、当社グループのさまざまな取り組みの状況を、社会の皆さまにより深くご理解いただきたいと考えてきました。その一貫として、2001年から「環境報告書」を作成し、2006年以降は、社会的な取り組みにかかわる側面を充足した「環境・社会活動報告書」を発行してきました。

昨今、企業の不祥事や大事故が続き、経営の透明性やコンプライアンス、情報公開など、企業経営の基盤にかかわる事項へのステークホルダーの皆さまの関心がますます高まってきています。このような背景を鑑み、報告書に掲載する情報の範囲を上げ、グループ全体の事業活動が見える内容とするべく、本年度版から「CSR報告書」と改称し、発行することにしました。

また、メーカーである私たちにとって、工場や事業所の立地する地域住民の方とのコミュニケーションは、欠かすことのできない大切な活動と考えています。名古屋工場、高岡工場などでは地域の皆さまとの対話集会を開催しており、また、各事業所では、積極的に工場見学を受け入れるなど、コミュニケーションの充実に努め、私たちの事業活動について理解を深めていただけるように取り組んでいます。

東亜合成グループは、これからも一層CSRの取り組みを充実させ、CSR報告書を地域や社会の皆さまとのコミュニケーションを図るツールとして活かしていきたいと考えています。本報告書をご覧いただき、ぜひ皆さまの忌憚のないご意見をお聞かせください。私たちは、皆さまのご要望に応じていくことで、将来にわたり、次の世代の方々からも信頼され、持続的に成長する企業グループであり続けたいと思います。

代表取締役社長 橋本 太

東亜合成グループの概要

会社概要 (数値は2007年12月31日現在)

設立	昭和17年3月31日
本社所在地	東京都港区西新橋一丁目14番1号
代表取締役社長	橋本 太
資本金	20,886百万円
従業員数	連結 2,552名 (単体 917名)
売上高	連結 162,729百万円 (単体 79,993百万円)
経常利益	連結 13,462百万円 (単体 10,196百万円)
当期純利益	連結 6,403百万円 (単体 7,513百万円)

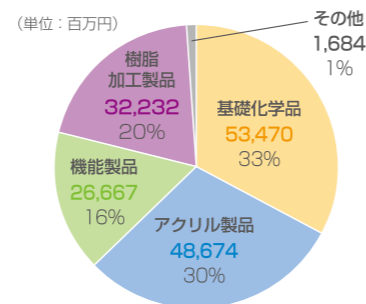


東亜合成グループの技術・製品領域

東亜合成は1942年(昭和17年)3月31日の設立以来、わが国の化学産業の発展とともに成長し続けてきました。東亜合成グループは東亜合成とグループ企業39社で構成され、基礎化学品、アクリル製品、機能製品、樹脂加工製品の事業領域で、それぞれの企業が独自の強みを発揮し、技術と製品の領域を拡大しています。

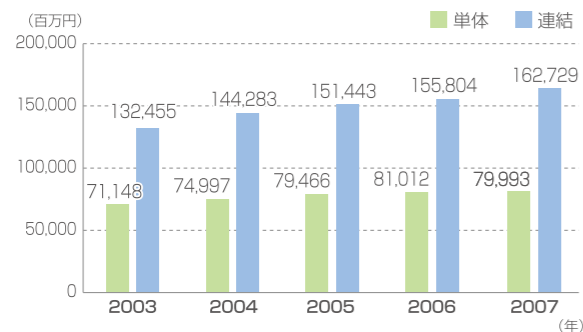
詳しい製品紹介はP.8・9をご覧ください

● セグメント別売上高 (2007年連結)

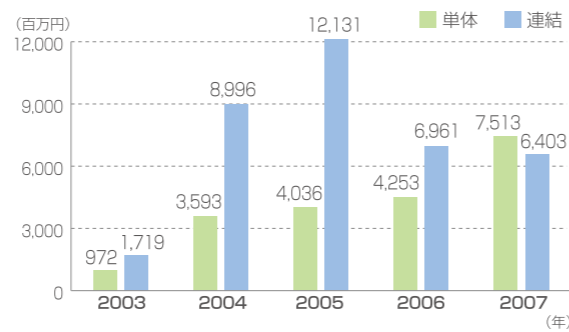


主な経営指標

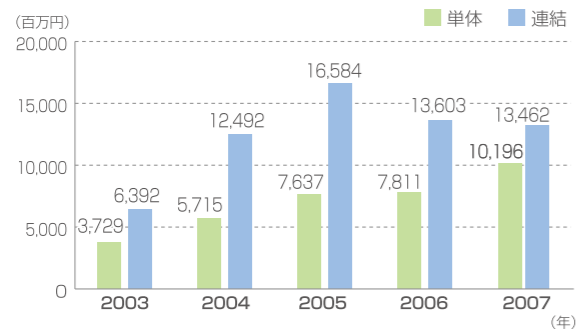
● 売上高推移



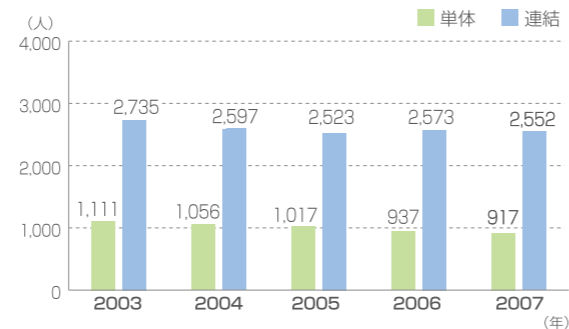
● 当期純利益推移



● 経常利益推移



● 従業員推移



東亜合成グループ

● 東亜合成株式会社

- ・本店
- ・大阪支店
- ・名古屋支店
- ・北陸営業所
- ・四国営業所
- ・福岡営業所
- ・名古屋工場
- ・徳島工場
- ・高岡工場
- ・坂出工場
- ・名古屋研究機構
- ・先端科学研究所

● 主な関係会社

- ・アロン化成株式会社
- ・鶴見曹達株式会社
- ・日本純薬株式会社
- ・アロンエバークリップ・リミテッド
- ・MT アクアポリマー株式会社
- ・大分ケミカル株式会社
- ・東亜テクノガス株式会社
- ・株式会社 TG コーポレーション
- ・TOA エンジニアリング株式会社
- ・東亜ビジネスアソシエ株式会社
- ・東亜興業株式会社
- ・東亜物流株式会社
- ・北陸東亜物流株式会社
- ・四国東亜物流株式会社
- ・アロン包装株式会社

● グループ・ワールドワイド

- ・東亜合成(珠海)有限公司
- ・張家港東亜迪愛生化学有限公司
- ・台湾東亜合成股份有限公司
- ・東昌化学股份有限公司
- ・Toagosei Hong Kong Limited
- ・Toagosei Singapore Pte Ltd.
- ・Toagosei America Inc.
- ・Elmer's & Toagosei Co.
- ・Toagosei Korea Co., Ltd.

CSRへの取り組み

- | | |
|---|---|
| <p>1958年 ● 環境保安年次大会発足</p> <p>1961年 ● 高岡工場 通商産業大臣より高圧ガス保安優良事業所として表彰</p> <p>1980年 ● 徳島工場 通商産業大臣よりエネルギー管理優良工場として表彰</p> <p>1986年 ● 徳島工場 通商産業大臣より高圧ガス保安優良賞を受賞</p> <p>1993年 ● レスポンスフル・ケア基本方針を制定</p> <p>1995年 ● 日本レスポンスフル・ケア協議会に入会
● 東亜合成4工場で順次ISO9001認証取得</p> <p>1998年 ● 東亜合成4工場で順次ISO14001認証取得</p> <p>1999年 ● アロン化成名古屋工場でISO9001認証取得
● 鶴見曹達でISO9001認証取得</p> <p>2000年 ● 環境会計システムを導入
● ICCAのHPVイニシアチブ参加
● 日本化学工業協会のLRI活動支援
● アロン化成徳島工場でISO14001認証取得
● 日本純薬でISO9001認証取得</p> <p>2001年 ● 環境報告書初版発行
● アロン化成尾道工場でISO9001認証取得</p> <p>2002年 ● アロン化成本店でISO14001認証取得</p> <p>2003年 ● 名古屋工場 資源循環・システム表彰「経済産業大臣賞」を受賞
● 鶴見曹達でISO14001認証取得</p> <p>2004年 ● 「東亜合成グループ行動憲章」、「東亜合成グループ行動基準マニュアル」制定</p> | <p>2005年 ● つくば研究所 社団法人日本化学工業協会より日化協無災害事業所として表彰
● アロンエバークリップ・リミテッド神奈川工場でISO14001認証取得
● 日本純薬高岡工場でISO14001認証取得</p> <p>2006年 ● 内部統制室を設置
● アロンエバークリップ・リミテッド神奈川工場でISO9001認証取得</p> <p>2007年 ● 東亜合成としてISOシステムの統合認証取得(本社、4工場、研究所、一部グループ企業)
● 坂出工場 経済産業大臣より高圧ガス保安優良事業所として表彰</p> <p>2008年 ● 坂出工場 消防庁長官より優良危険物関係事業所として表彰
● 坂出工場 社団法人日本化学工業協会より日化協無災害事業所として表彰
● 先端科学研究所 社団法人日本化学工業協会より日化協無災害事業所として表彰
● CSR推進会議を設置し、グループ各社を含めたCSR推進体制を強化
● 環境・社会活動報告書を充実させ、CSR報告書の初版を発行</p> |
|---|---|

暮らしの中の東亜合成グループ

東亜合成グループの製品はアロンアルファ®だけで

東亜合成といえばアロンアルファ®を思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、それは事業のほんの一部にすぎません。日々の暮らしの中にはさまざまな東亜合成グループの製品が使用されています。

基礎化学品

東亜合成グループで最も歴史のある事業です。か性ソーダや各種塩化物、硫酸、工業用ガスなど、多種多様な産業に使われる製品の供給を通じて皆さまの暮らしに貢献しています。

主要製品
か性ソーダ、か性カリおよび次亜塩素酸ソーダ、過塩化鉄液、液体塩素、塩酸などの無機塩化物、硫酸などの農業関連製品、硫酸、塩素系有機溶剤、窒素・アルゴンなどの工業ガス、特殊ガス など

機能製品

お客様のご要望にお応えしながら進化し続けてきた瞬間接着剤や各種工業用接着剤、優れた機能性と特殊性を追求した光硬化型樹脂などを開発・製造・販売しています。さらに、エレクトロニクス分野、アメニティ分野での製品を開発し、お客様からご好評をいただいています。

主要製品
一般用工業用各種接着剤、アクリル系オリゴマーなどの光硬化型樹脂、無機イオン交換体、電材用製品、アメニティ製品 など

アクリル製品

東亜合成グループのコア事業として国際市場で存在感を発揮するアクリル酸、アクリル酸エステル、ならびにその誘導品を開発・製造・販売しています。

主要製品
アクリル酸、アクリル酸エステル、アクリル系ポリマー、高分子凝集剤などのアクリル系各種重合体、土木・建築製品、粉体塗料 など

樹脂加工製品

プラスチック加工技術を基盤技術とするアロン化成は、上下水道、電力・通信、介護、環境保全に加え、エラストマーコンパウンド分野にも注力しています。

主要製品
上下水道関連管工機材製品、電力・通信関連管工機材製品、介護関連および環境保全関連などの生活用品関連製品 など

街中で

ICカードに接着剤が使われています。



光硬化型樹脂「アロニックス®」は携帯電話の表面コーティングに使われています。



塩化ビニル製マンホールふた



建物の保護や安全・長寿命化に役立つ豊富な建材製品



アクリル酸エステルはアクリル塗料の主原料です。

汚水処理に高分子凝集剤が使われています。

なくさまざまなフィールドで社会に貢献しています

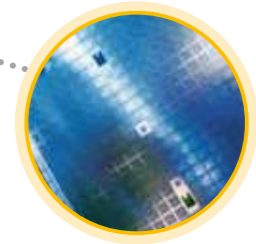
オフィスで



アクリル酸エステルは接着剤の原料になります。



か性ソーダは紙の製造工程でも使われています。



シリコンウエハー、半導体の製造に高純度製品、工業ガスが使われています。

バスルームで

快適で清潔な暮らしに伝える銀系無機抗菌剤「ノバロン®」



塩化ビニル製小口径マス・マンホール



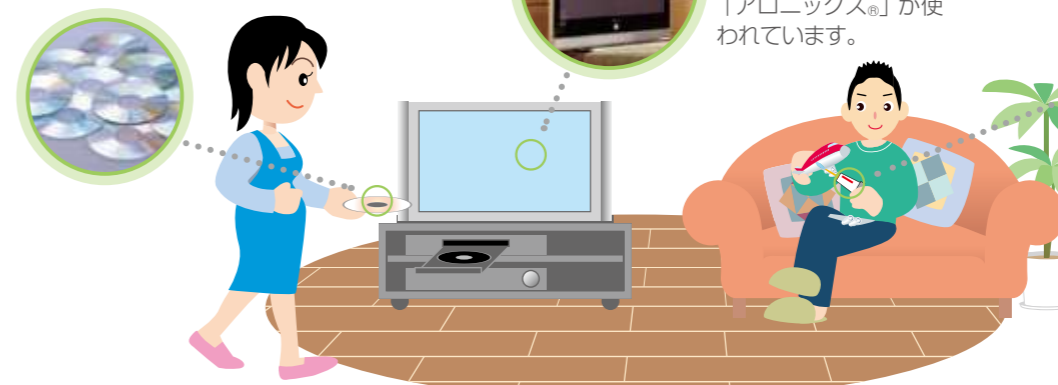
入浴介護用品

家庭で

光硬化型樹脂「アロニックス®」はDVDの製造に使われています。



液晶テレビの部品に「アロニックス®」が使われています。



瞬間接着剤の代名詞、世界で人気の「アロンアルファ®」

人と地球に優しい技術・製品の開発

省エネルギー・リサイクル・有害物質の低減など環境に優しい製品、抗菌・医薬など人に優しい製品、これらの両面から人と地球の健康に役立つ製品の開発を行っています。

日本の抗菌技術の国際規格化 (ISO22196) に貢献

「ノバロン®」は東亜合成が独自に開発した無機イオン交換体に、銀イオンを担持させた抗菌剤であり、広い範囲の細菌に抗菌効果を発揮する銀系無機抗菌剤です。均一微粒子で吸湿性がほとんどなく、耐熱性にも優れているため、繊維、フィルム、プラスチック成形品や塗料と幅広い用途で使用されています。安全性も非常に高く、米国FDA（食品医薬品局）で認可されています。

当社も幹事会社である抗菌製品技術協議会（SIAA）が中心となり経済産業省の支援を受けて抗菌評価方法（JIS Z 2801）の国際規格化を推進した結果、抗菌製品の性能を評価する試験方法が国際標準化機構（ISO）

において、正式にISO22196として2007年10月に発行されました。『菌をすべて殺すのではなく菌と共生する』といった環境との調和を配慮した日本発の技術と概念が世界に認められたことにもなります。「KOHKIN」という言葉も世界の共通語になる日も近いことと思います。

「ノバロン®」も本協議会の自主規格のもとに設計された製品であり、本協議会の安定性を示す自己認証マーク（SIAA抗菌マーク）を取得しています。

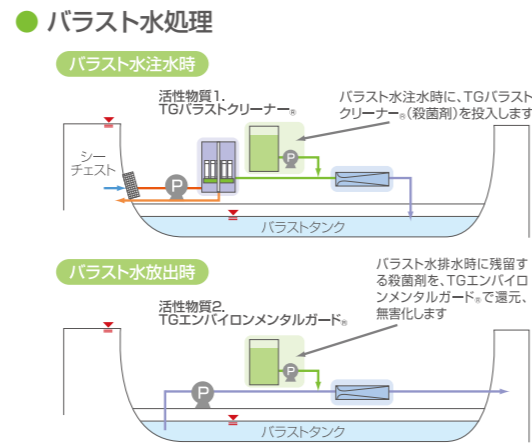


SIAA抗菌マーク

バラスト水※処理薬剤の開発

バラスト水に含まれる水生生物や微生物が本来の生息地でない環境中に拡散することで、生態系の破壊につながるほか、魚類への被害や、貝類が有害なプランクトンを取り込んで起きる「貝毒」など、人への健康被害も問題になっています。東亜合成グループは、バラスト水中の有害水生生物や微生物を処理して無害化する活性物質を開発し、2008年1月に承認機関である国際海事機関（IMO）に在英大使館を通じて基本承認を申請しました。

※バラスト水とは、貨物船が空荷で航行する際、船体を安定させるために積み込む海水。



ペプチドーム創薬プロジェクトを開始

東亜合成 先端科学研究所では、慶應義塾大学医学部・分子生物学教室（工藤純准教授）と共同で、所内に慶應義塾大学先導研究センター-GSP（Genome Super Power）センターを2007年6月に立ち上げ、ペプチドーム創薬プロジェクトを開始しました。このプロジェクトは、世界で初めてヒトの8番、21番、22番染色体を解読し、ヒトゲノム解読国際プロジェクトに多大な貢献をされている慶應義塾大学・清水信義名誉教授のご協力のもとに推進しています。ヒトをはじめとする生物のゲノム情報を徹底的にコンピューター解析し、これまでにない新たな天然あるいは人工ペプチド（ペプチドーム）

を網羅的にデザインすることにより、画期的なパワーを持つ新規機能性ペプチドの創出を狙っています。

また、将来的には、ライフサイエンス分野の技術とケミカル分野の技術の融合を進め、皆さまに役立つ新しい技術・製品の創出を目指しています。



東亜合成 先端科学研究所

小型燃料電池用電解質膜の開発

燃料電池は環境・エネルギー面で重要な技術のひとつです。2008年1月1日付の日本経済新聞に、「企業が国内で注目する主な環境技術」ランキングが掲載されています。燃料電池は2年連続1位であり、地球温暖化防止に直結する技術として非常に注目されています。国内では燃料電池を搭載した定置用電源が実証試験段階から市場開発段階へ、欧米では燃料電池を搭載したキャンピングカー用外部電源、フォークリフト用電源等の販売が開始されており、実用化目前にあります。

東亜合成では、小型燃料電池用電解質膜の開発を進めており、現在開発中の電解質膜は、炭化水素系の高分子を用い、特にメタノールを使用する「直接メタノール

形燃料電池（DMFC）」用電解質膜に適しています。従来のフッ素系電解質膜に比べて、メタノールの透過を大幅に抑制し、より高い電池性能を引き出すための膜設計に取り組んでいます。

現在は、国内外の燃料電池を研究開発している企業に向けて電解質膜をサンプル提供しており、良好な結果を得ています。東亜合成ではDMFCの早期実現化に貢献できるよう、さらなる技術改良を重ねています。



細孔フィリング電解質膜

PETボトルリサイクル材「ウッディペット®」

市場から回収された使用済みペットボトルと再生PET樹脂用改質剤「AR-P」を独自の成形技術により組み合わせ、美しい木調外観を持った樹脂素材「ウッディペット®」をはじめとする環境配慮型商品を市場に提供しています。

「ウッディペット®」は耐候性、耐久性に優れ、屋外用用途製品の組み立て素材に適した商品です。アロン化成

では公園、緑地などに設置される案内サイン、ベンチ、デッキなどの製品開発から販売まで行っており、「ウッディペット®」の持つ美観により、良好な景観形成の促進およびリサイクル商品の提案を通じ、循環型社会形成に向けて取り組んでいます。



ウッディペット®
木目調の再生PET樹脂板はアロン化成のオリジナルです

ガス拡散電極電解槽の開発

次世代の食塩電気分解技術である「ガス拡散電極法」による製法の事業化に向けて、東亜合成 徳島工場の商用生産ラインに、既存電解槽と同規模のガス拡散電極法電解槽を1槽設置し、2007年5月から実証試験を開始しています。

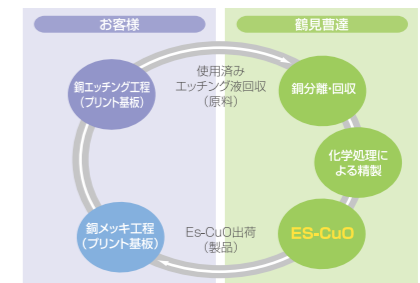
この開発においては、これまでソーダ産業界が進めてきた研究開発に、さらに数社での独自研究による改良を加え、現在は東亜合成と独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との共同研究の形で技術の確立を進めています。

実証試験はスムーズに立ち上がり、電力使用量は従来法の2/3、安定運転の継続、製品品質に関しても従来と同等品が得られ、実レベルでも適用可能な技術であることが判明しました。今後も引き続き試験操作を実施し、諸性能のさらなる向上、製法転換投資コストを抑える技術開発を継続していきます。本技術の普及により、大幅な省エネルギーはもとより、地球温暖化等の環境問題に大きな貢献ができるものと確信しております。

プリント配線板メッキ用銅源易溶性酸化銅粉「ES-CuO」

鶴見曹達では電子部品の製造時に発生する使用済みエッチング液（廃液）をベースに、メッキ用銅源として「易溶性酸化銅粉」（商品名：ES-CuO）を開発しました。高純度かつ高品位な銅粉末で、メッキ液に短時間で素早く溶解し、粉立ちが少なく流動性も良好といった特長があります。プリント配線板製造用、シリコンウエハー向けメッキ、プラスチックの装飾メッキ、グラビア印刷シリンダのメッキ用などに使用されています。

リサイクルの図



東亜合成グループの企業理念そのものがCSR方針です。

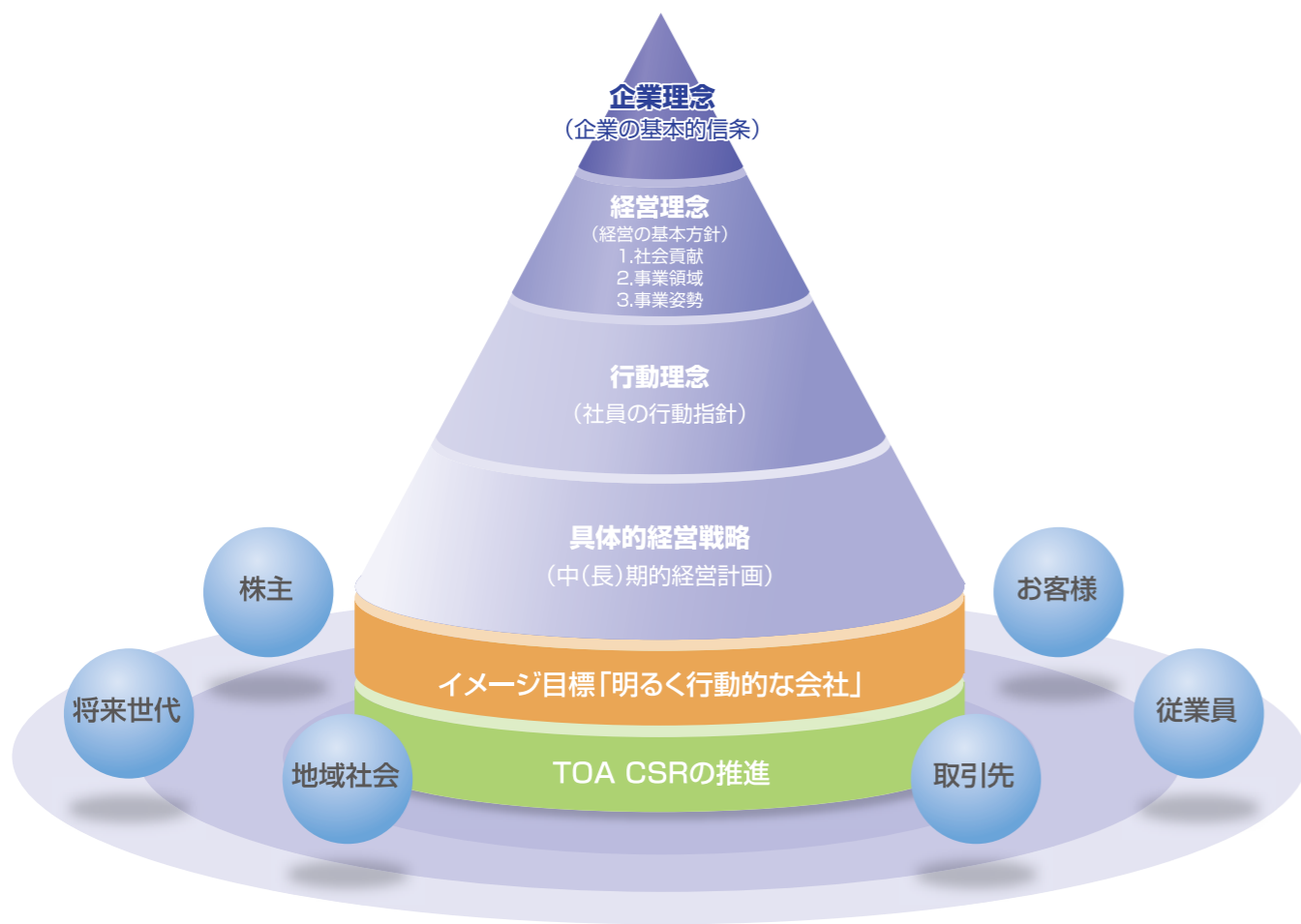
■ 企業理念 (企業の基本的信条)

化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う

東亜合成グループの「社会的な存在価値」および「将来も目指すべき事業目的」は、化学製品の製造を本業として、投資家、従業員、顧客、消費者、地域社会のすべての人に対して生活条件の向上を図ることにあります。当社の経営の姿勢として、企業とは本質的に何かという原点に立ち返り、成長する質的に優れた「グッド・カンパニー」であることを目指します。また事業遂行にあたって

は、地域に溶け込んだ「良き市民」として、社会、地球環境と調和した企業活動に心掛けます。

企業に対する社会的な要請に応えている状態を、「企業の基本的信条」を示すキーワード「より多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」によって「和」の概念に集約表現しました。



■ 経営理念 (経営の基本方針)

第1節 社会貢献

化学事業を通じて社会に貢献する

- ① 優れた化学製品を提供することにより、快適な生活環境を提供する
- ② 良き企業市民として地域社会に貢献する
- ③ より多くの人々に働く場を提供する

第2節 事業領域

特色ある技術を基盤として化学の領域で事業を創造する

- ① 基幹製品(アクリル、電解等)を体質強化・拡充し、特化した機能製品を創出する
- ② 化学を本業として、その新規周辺分野へ展開を図る
- ③ 新分野(生化学分野等)を新しい柱に構築する

第3節 事業姿勢

(1) マネジメントの基本姿勢

- ① 新たな価値の創造へ挑戦する
- ② 時代の要求を先取りする
- ③ 国際性を備えた企業として世界に展開する
- ④ 信頼にもとづく取引をする
- ⑤ 利潤の確保は世間の納得する適正な基準とする
- ⑥ 技術に裏付けられた製品を供給する

(2) 投資家・顧客・従業員に対する基本姿勢

- 投資家・顧客・従業員にとって魅力ある成長する企業となる
- ① 「投資家に対する適正な利益配分と利回りの確保」
 - ② 「顧客第一主義」
 - ③ 「人を大切にする企業」

(3) 組織の運営に対する基本姿勢

- 活性化した創造性のある集団を創る
- (1) 「活性化した状態」とは「個人・組織ともに伸びやかで活力に満ちた状態」を指す
 - (2) 「活性化した組織の指標」は次の通り
 - ① 「挑戦的で変革に前向き」
 - ② 「ボトムアップとトップダウンが融合する」
 - ③ 「総合力を発揮する」

「総合力が発揮できる最効率的な状態」は、単に「算術的な力の総和」でなく「幾何級数的な力の積」となった状態を指す
 - (3) 活性化した組織を創り上げる「具体的要因」は次の通り
 - ① 上司の適切なリーダーシップと上下横の意思疎通が存在する明るい職場
 - ② 大企業病(組織の活性化阻害)に陥る兆しに対しては、意識改革・刷新が速やかに行える気風
 - ③ 責任体制が明確で個人の能力を重視した処遇
 - ④ 個人評価については、評価基準が明確かつ公平性、納得性のある評価であること。失敗よりもチャレンジ意欲を重視する評価であること
 - ⑤ 視野の広い、独善に陥らない気風(井の中の蛙に陥らない気風)

(4) 環境問題に対する基本姿勢

- 環境の保全と積極的な環境改善により地球環境と調和した会社の発展を図る

■ 行動理念

社員の行動指針

- ① 現実を正確に把握する
- ② 変革に挑戦する
- ③ 惰性を排して目標を掲げて行動する
- ④ 新しい技術・市場・業務の開発に積極的に取り組む
- ⑤ 礼儀を重んじ、信頼される行動をとる

■ CSRの推進

東亜合成グループは2008年～2010年の中期経営計画"ALL TOA 2010"で「CSRの推進」を経営施策に掲げ、「社会貢献」「企業倫理」「環境・安全」を柱として活動を推進しています。

右記の活動をさらに徹底、強化するため、2008年6月1日よりCSR推進会議を設置しました。東亜合成グループのCSRにかかわる取り組みを維持・向上し、事業の発展に資することを目的としています。

CSRIにかかわる取り組みは以下5点です。

- ① ステークホルダーを重視した経営の充実を図る。
- ② コンプライアンス(法令遵守)の徹底に向けた活動の推

進を図る。

- ③ 内部統制およびコーポレート・ガバナンス(企業統治)の向上を図る。
- ④ RC(レスポンスブル・ケア)活動の充実を図る。
- ⑤ 社会貢献にかかわる活動の推進を図る。

CSR(企業の社会的責任)の推進

- 「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念のもと、東亜合成グループのCSR推進活動を包括的な取り組みとして実行する。
- 社会貢献、企業倫理、環境・安全を柱とした活動を推進する。
 - ・製品の安全と環境保全を確保する活動を推進する。
 - ・企業倫理の徹底を図る。

体制面での強化、社内教育の徹底の両面からCSRの推進に積極的に取り組んでいます。

■ コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

東亜合成では、変化の激しい経営環境に迅速かつ的確に対応し、公平かつ透明性の高い経営を実現することを基本的な考えとして、そのための管理組織を構築しています。

体制強化への取り組み

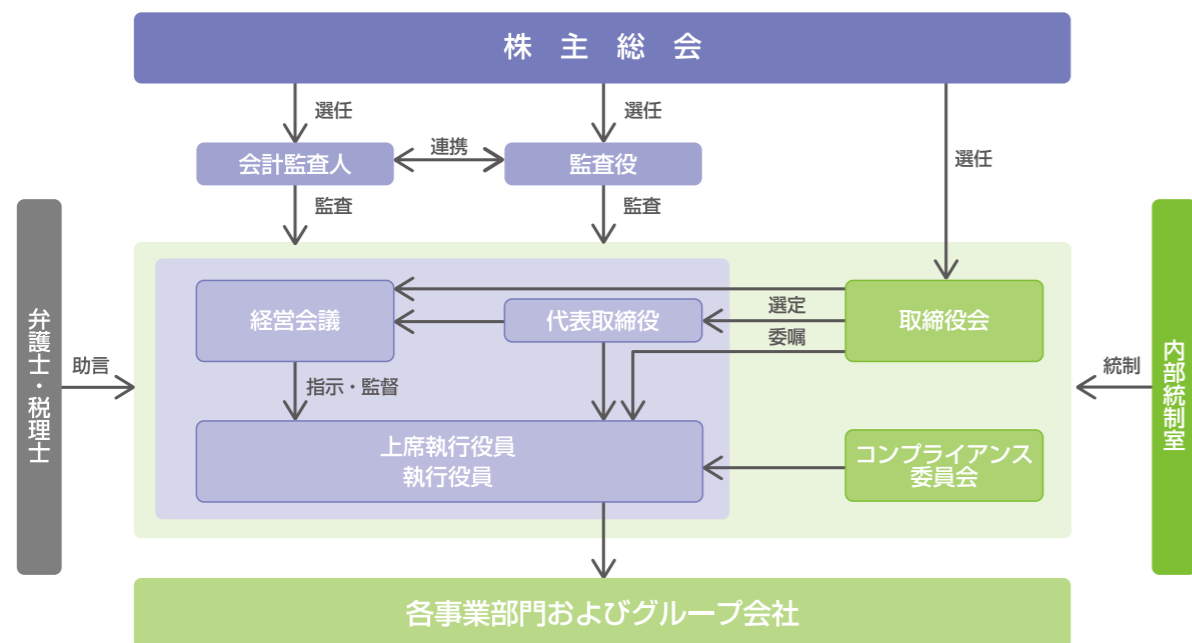
東亜合成では、2001年に執行役員制度を導入し、経営と執行を分離するとともに、取締役の員数を削減し、機動的かつ的確な意思決定と効率的な業務執行の実現、業務執行責任の明確化を図ってきました。また、2003年からは当社と利害関係のない社外取締役を登用し、経営監督機能の強化にも努めています。

取締役会は月例開催され、法令、定款および取締役会規則に定められた経営上重要な事項の決定および業務執行の監督を定期的に行っています。また、取締役会付

議事項の事前審議、重要な経営事項の審議、重要な業務推進上の報告事項およびその他の重要事項の審議を目的とした経営会議を原則として毎週開催することにより、意思決定の迅速化および業務執行の効率化を図っています。

監査役は、取締役会への出席や定期的に開催する監査役会での意見交換等により業務執行を厳格かつ公正に監査しています。また、監査役は、会計監査人から会計監査計画および監査実施結果の説明を適宜受けるとともに、必要に応じて会計監査人との間で意見交換等を行い、監査体制の充実・強化を図っています。監査役は当社従業員に対して監査業務に必要な事項を命令することができ、命令を受けた従業員はその命令に関して取締役の指揮命令を受けないなど、その独立性の保持する体制としています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



■ コンプライアンス

東亜合成グループは、コンプライアンスを重視した経営を推進するため、次の通り社内体制を整えています。

「東亜合成グループ行動憲章」および「東亜合成グループ行動基準マニュアル」

東亜合成グループのすべての役員・従業員などが良き社会人として行動するための根本規範である「行動憲章」および役員・従業員に求められる正しい行動の拠りどころである「行動基準マニュアル」を制定していま

す。「行動憲章」および「行動基準マニュアル」は、国内外グループ会社のすべての役員・従業員を対象としています。



企業倫理カード

東亜合成グループ行動憲章

- ① 使命**
私たちは、快適な生活環境作りに貢献する、社会的に有用で安全な製品、サービスを開発、提供する。
- ② 規範の遵守**
私たちは、国内外の法令およびその精神、社内規程を遵守し、基本的人権を尊重する。私たちは、政治、行政とは正常かつ健全な関係を保ち、公正、透明、自由な競争を行う。
- ③ コミュニケーション**
私たちは、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を適時適切に開示する。
- ④ 海外での活動**
私たちは、海外においては、その文化、慣習を尊重し、現地の発展に貢献する。
- ⑤ 反社会的勢力との対決**
私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与えるいかなる反社会的勢力、団体とは断固として対決する。
- ⑥ 社会貢献**
私たちは、地域社会を尊重し、良き企業市民として社会に貢献する。
- ⑦ 環境との調和**
私たちは、社会全体が持続的に発展するため、環境問題に自主的、積極的に取り組む。
- ⑧ 企業環境**
私たちは、安全で働きやすい環境を確保するとともに、個人の人格、個性を尊重する。
- ⑨ 企業倫理の徹底**
経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、グループ全体に周知徹底する。また、社内外の声を常時把握し、意思疎通を深め、実効ある社内体制整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。
- ⑩ 問題解決**
本憲章に反する事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、その事実関係を明確にし原因の究明と再発の防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報公開と説明責任を遂行し、社会にも十分理解される形で事態の解決を図り、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行う。

内部統制

コーポレート・ガバナンスを強化すべく、2006年4月に社長直轄の組織として「内部統制室」を新設し、取締役会において内部統制システムの基本方針に関する決議を行いました。内部統制室は、社内業務監査および内部統制に関する業務を担当し、内部監査結果を取締役会および監査役会に報告する体制としています。

コンプライアンス委員会

東亜合成グループでは、東亜合成の役員、関係会社の役員および社外委員の弁護士からなる横断的な監督・調査機関としてコンプライアンス委員会を設置しています。同委員会は、コンプライアンスを重視した経営の推進を支援するとともに、コンプライアンスの実践状況を監督・調査し、改善勧告を行うことができます。

コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底、推進には、法令や企業倫理に関する知識の習得のみならず、守らなければならないという意識を醸成することが必要かつ重要と考えています。当社グループでは、新入社員教育、中堅社員研修、新任管理職研修などにおいて、社外から専門的な講師も招き、定期的に教育を行っています。



新入社員コンプライアンス教育



独占禁止法講習会

企業倫理ヘルプライン (コンプライアンス・ホットライン)

当社グループでは、コンプライアンスに関する問題を早期に発見して解決する自浄システムとして「企業倫理ヘルプライン」を設けています。社内、社外の2系統の相談窓口を用意し、書面、電話、Eメールで連絡を受け付けています。また、当該制度に基づき通報を行った人に対し、不利益な取り扱いはいりません。

個人情報保護

当社グループでは「個人情報保護方針」を策定し、法律などに基づき、当社グループ各社に共通する遵守事項を定めています。また、業務に関連して収集した個人情報や、従業員の個人情報を適正に管理するための体制や措置および具体的な個人情報の取り扱い方法などを「個人情報保護規程」に定めています。

Voice 企業倫理研修

東亜合成(株) 本店営業部
機能樹脂グループ
河原 保



顧客との商談をはじめとした日常業務に追われる中、業務から一歩離れ、社会全体として注目されている「企業倫理」に関してさまざまな部門の方々と議論したので、非常に有意義でした。

最近ではどの企業もコンプライアンスやCSRを謳っていますが、言葉だけがクローズアップされているような感を受けていました。自分自身も深く意識することはなかっただけに、研修はよい機会でした。ただ、企業倫理は個人の数時間の研修で培われるものでもないの、会社として今後も社内外の研修などを通して定期的に啓蒙する必要があります。

企業として利益を上げることは必須ですが、その基本に企業倫理があり、自分としては、もう一度研修で考えたことを顧みて、内容の伴った倫理観を身に付けたいと考えています。

■ リスクマネジメント

想定されるリスク

東亜合成グループではCSRにかかわるさまざまな危機事態を想定し、その発生が予想される場合や実際に危機事態が発生した場合の対応について、組織体制、対応要領を「危機管理基本マニュアル」に定めています。

なお、想定される危機事態には次のものがあります。

危機事態

- ① 事故災害
地震などの自然災害、製造工程における爆発・火災事故、製品輸送途上における漏洩等の事故など
- ② 製品の欠陥、公害
生産活動に伴う公害・環境汚染、人命にかかわるような製品の重大欠陥など
- ③ 信用の失墜
重大な法規制違反、役員・社員の不祥事、機密情報の漏洩など、社会的信用を著しく損なうような事態
- ④ 会社に対する犯罪
財産および業務に重大な損害を及ぼす恐れのある爆破、放火などの犯罪
- ⑤ 役員・社員に対する犯罪、事故
役員・社員、およびその家族の生命に危害が及ぶ恐れのあるテロ、誘拐などの犯罪



危機管理基本方針



危機管理基本マニュアル

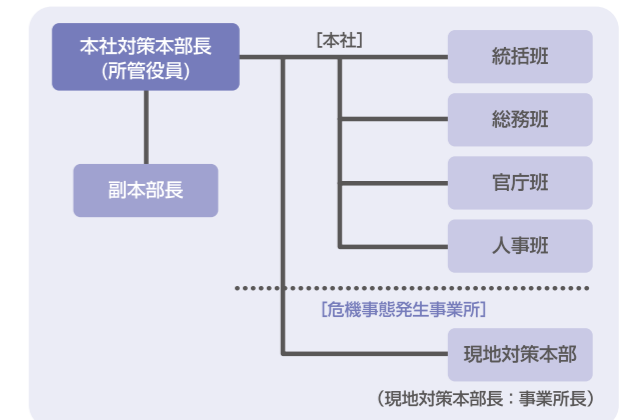
危機事態発生時の対応

危機事態が発生した場合の対応としては、事態を認知した社員からの緊急連絡を受けて、発生した危機事態に対する所管役員がそのリスクレベルを判断、決定します。

対応組織、要領は危機事態のレベル毎に規定されており、事態発生事業所と本社が連携してその措置にあたることになっています。

また、化学物質の製造を行う当社グループにおいては、特に事故災害への対応に万全を期すことが重要であり、これについては、「危機管理基本マニュアル」のもとに、より詳細に対応手順を定めた措置マニュアルを事業所毎に制定し、定期的な防災訓練を通して、手順の見直しと措置対応の習熟に取り組んでいます。

■ 危機対応の組織



■ レスポンシブル・ケア (RC)

RC方針

東亜合成グループは、化学企業として安全（労働安全・保安防災・製品安全・物流安全）の確保と環境の保全への取り組みを継続して確実に進めるためにRC基本方針を掲げ、グループ全体でRC活動を推進しています。

企業理念に則り、有益な化学製品を提供していくことで社会に貢献していくことを基本に、その事業活動全般を通して、働く者および社会の皆さまの安全を最優先とし、原材料の調達から使用後の製品の廃棄に至るすべての過程を対象に環境への負荷を低減することを目指しています。

2007年度の活動総括

当社グループではISO9001、14001のシステムを用いたスピード感のある改善活動を効果的に推進すべく、

マネジメントの仕組みそのものの充実を図っています。

このシステムの運用において、安全、環境、品質の3つの側面について、次頁に示す通り、年度の推進項目と目標を設定し、各部門においてはこれをブレイクダウンした実行計画を策定し、活動を展開しています。

活動の実績としては、労働安全の面では、東亜合成グループおよび協力事業所全体で3件の休業災害が発生し、目標の達成には至りませんでした。

環境保全面では、省エネルギー、埋立廃棄物の削減、化学物質の排出量削減の3項目を重点推進項目に取り上げて活動を進めました。その結果、埋立廃棄物の削減、化学物質の排出量削減については目標を達成し、特に埋立廃棄物の削減については目標を大きく上回る結果が得られました。一方、省エネルギーについては、エネルギー使用量は前年より減少しましたが、エネルギー使用原単位では目標に達しませんでした。

レスポンシブル・ケア (RC) 基本方針

製品の開発から使用後の廃棄に至る過程のあらゆる段階において、製品安全、保安衛生、環境保全に配慮し、顧客・社会からの信頼性向上に努める。

- 安全方針
無事故・無災害を最優先として、働く者と地域社会の安全を確保する。
- 製品安全方針
化学物質の管理強化と、積極的な製品安全情報の開示を通じて、安全で信頼される製品を社会に提供していく。
- 環境方針
全ての事業活動において環境の保全に配慮し、持続可能な社会の発展に努める。
- 品質方針
品質管理の充実を図り、顧客に満足される製品とサービスを提供する。



レスポンシブル・ケア (RC) とは

製品の開発、製造、流通、使用、最終消費、廃棄に至る全ライフサイクルにわたり、化学物質を取り扱う企業が自主的に「環境・安全・健康」の確保に努め、活動の成果を公表し社会とのコミュニケーションを図っていく活動です。レスポンシブル・ケア活動は化学企業が社会と調和した発展を目指すうえで不可欠な活動となっています。

■ 2007年の活動実績、2008年の目標

RC項目	2007年 目標および推進項目	2007年実績	評価 ^{※1}	2008年 目標および推進項目	掲載ページ
マネジメントシステム	ISOシステムの有効性向上 ・業務改善の推進強化 ・継続的な改善活動の推進 ・教育システムの整備	目標管理の進捗管理を強化 技術教育システムの再構築実施	○	CSRマネジメントシステムの整備 ・統合システムの構築と効果的な運用 教育システムの見直し ・教育体系の見直し ・力量管理の推進	P.13 P.30 P.28
	従業員、協力事業所ともに休業災害ゼロ ・明るく元気な職場づくり ・ゼロ災害活動の推進 ・工事の安全管理充実 ・リスクアセスメント手法の導入	休業災害発生3件	×	休業災害ゼロ(従業員および協力事業所) 爆発・火災等の重大事故ゼロ ・安全ルールの遵守徹底 ・工事の安全管理充実 ・リスクアセスメントによる不安全箇所の改善 ・危機管理体制の整備 ・明るく元気な職場づくり	P.40 P.41
	重大事故ゼロ ・事故防止の施策の推進 ・知識・技術伝承の推進	重大事故発生なし	○		
製品安全	重大トラブルゼロ ・化学物質管理にかかわる法規制の遵守徹底 ・改正労働安全衛生法(GHS)への対応 ・REACH規制への対応	重大トラブル発生なし	○	製品安全にかかわる重大トラブルゼロ ・化学物質管理の徹底 ・REACH規制への対応 グリーン調達ガイドラインの策定 ・顧客要求等を踏まえたガイドラインの策定	P.42 P.25
	エネルギー使用原単位：前年度比1%低減 ・テーマ探索と事業所間での水平展開	エネルギー使用原単位：0.6%増加 ^{※2} エネルギー使用量(原油換算)：1.7%低減	△	エネルギー使用量削減：原油換算2千K/L/年 ・削減事例の情報共有化と水平展開の推進	P.35
環境	最終埋立処分量の削減：前年度比10%削減 ・社内外リサイクル処理の推進	最終埋立処分量：32.6%低減	◎	ゼロエミッション目標の達成 ・廃棄物発生量の削減とリサイクルの推進	P.39
	化学物質の排出量削減：前年度比10%削減 ・環境対策設備の安定稼働	化学物質の排出量：14.9%低減	◎	PRTR調査対象物質 ^{※3} の排出量削減：前年度比15% ・削減アイテムの探索と対策の推進	P.38
品質	クレーム発生件数：前年度比30%削減 ・品質安定による顧客満足度向上	クレーム件数：30%削減	○	クレーム発生件数：前年度比10%削減 ・ヒューマンエラー防止の対策強化	
	品質管理体制の充実 ・委託製品の品質管理体制充実 ・顧客要求品質の製品設計への的確な反映 ・不適合撲滅運動の推進	委託製品の品質管理体制の一斉見直しを実施	○	品質バラツキ抑制による顧客満足度向上 ・品質管理、工程変更管理の強化 要求品質の製品開発・製品規格への反映 ・製品開発に結び付く「品質管理」の推進	P.20

※1 評価：◎目標を大幅に上回る成果が得られた項目、○目標を達成した項目、△ある程度の成果が得られた項目、×目標におよばなかった項目

※2 東亜合成単体

※3 社団法人日本化学工業協会指定の調査対象480物質

お客様とのかかわり

確かな品質保証体制のもとに、お客様に安心してご使用いただける製品の提供に努めています。

■ 品質保証体制

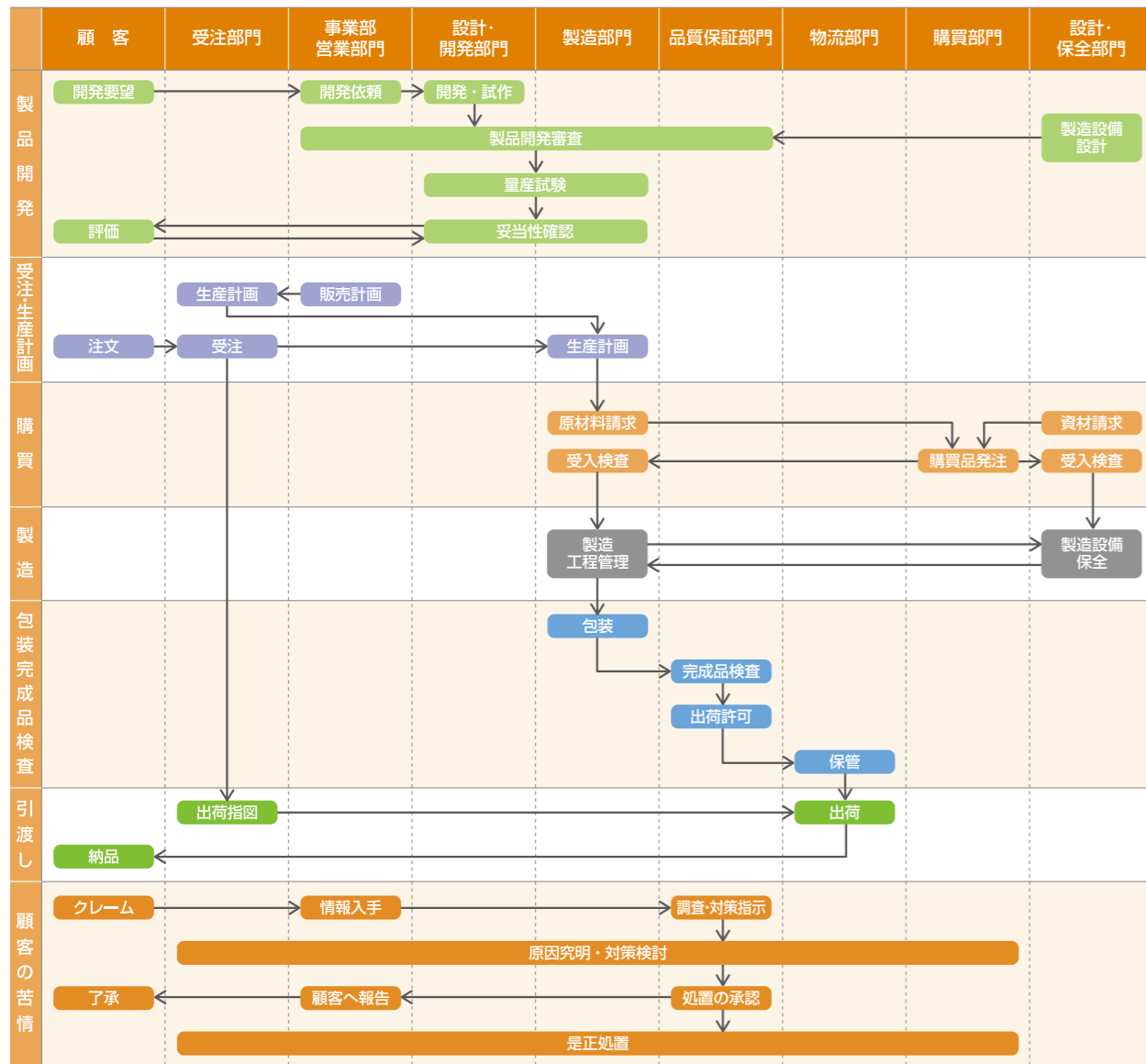
東亜合成では、全社一括でISO9001の第三者認証を取得し、規格に基づく品質マネジメントシステムによる品質保証体制を構築し、運用しています。

社長を頂点とし、関係会社も取り込んだ組織づくりを完成し、RC基本方針のもとに、「品質管理の充実を図り、顧客に満足される製品とサービスを提供する」という品質方針を実現するため、全部門において、品質マ

ジメントシステムの継続的改善と効果的な運用を実施するとともに、顧客要求事項および適用される法令・規制要求事項への適合を通して、仕事の質および顧客満足度の向上を目指しています。

品質保証体制の概略は下図に示す通りです。各部門の役割、責任と権限を明確にし、各業務が的確に遂行され、効率的に運用される体制としています。

■ 品質保証体系図



■ クレーム・苦情への対応

クレーム苦情への対応

お客様からの苦情・クレームは営業部門が情報を受け、直ちに工場の品質保証部門に連絡するルールを確立し、迅速に対応する体制を整えています。

クレーム情報は、グループ全体に水平展開し、類似トラブルの未然防止を図っています。また、RC推進会議を開催し、集計結果をもとにクレーム撲滅活動を進めています。さらに、東亜合成グループRC大会において、クレームや品質改善事例の紹介等を通じて、情報を共有し、品質管理の向上に役立てています。

顧客満足度の向上

東亜合成グループでは、安定品質の確保を基本とし、お客様に喜ばれ、信頼され、社会に役立つ事が第一であると考え、品質管理体制を充実し、顧客満足度の向上を図っています。

製品は開発段階より品質をつくり込み、品質安定化の確保とお客様からの信頼の獲得に努めています。また、営業部門では、お客様の意向を調査・把握し、開発・製造部門などへフィードバックし、より満足いただける製品の供給を心掛けています。

■ アロンアルファ®のお問い合わせ対応

アロンアルファ®のお問い合わせ対応の推進

お客様からの問い合わせに対し、より適切な対応を行うために、2003年7月から高岡工場生産技術グループに接着技術相談係を設置しました。窓口を一元化して情報を集約し、お客様の疑問などに対してきめ細かく対応してことを目的としています。

一般消費者をはじめ、年間約2,500件程度のご相談があり、接着剤の選定といった技術的なご相談やMSDSの送付など、さまざまなご要望に対応しています。また、ご相談内容を定期的に集計し、今後の製品開発や改良に反映するようにしています。

このようにして、お客様の声を直にお伺い、より満足いただける商品づくりを進めています。

■ お客様の声を反映した製品

～アロンアルファ®EXTRA®「速効多用途」～



「速効多用途」では、「一本でいろいろな素材を接着できるようにしてほしい」というご要望に応え、接着速度を追求するとともに、木材や厚紙といった染み込みやすい素材や、軟質ビニールのように難接着の素材にも接着できる多用途性を実現しました。

■ アロンアルファ®のホームページでの製品紹介

ホームページ上で用途紹介、正しい使用方法などを掲載

当社ホームページでは、アロンアルファ®の製品紹介をしています。この中で、各銘柄の用途や使用方法などを掲載していますが、「裏技レシピ」では、アロンアルファ®の便利な使い方、また、「アロンアルファ®Kidsらんど」では正しい使い方などを紹介しています。

さらに、MSDSや「アロンアルファ®使用上の注意」などにより使用上の注意、取り扱い上の注意などをわかりやすく告知しています。また、ホームページを通してのお客様からのご質問、ご要望に対しても、タイムリーにお答えするようにしています。



アロンアルファ®ホームページ

WEB 当社ホームページもご覧ください。
<http://www.toagosei.co.jp/aron/index.html>

東亜合成グループでは、全社社会貢献委員会を設置し、労働組合とともに積極的な社会貢献活動を実施しています。2007年の主な活動は以下の通りです。

■ 自然保護活動

「東亜合成の森づくり」(徳島工場)

徳島工場では、徳島県が進める自然林の再生を目的とした「県立高丸山千年の森づくり」の活動に参加しています。これは、工場近くの徳島県勝浦郡上勝町にある高丸山の斜面0.17haが「東亜合成の森」になるように、2004年から11種類の木を数百本植樹しているものです。

2007年は、5月・6月に下草刈りを、2007年11月には下草刈りと新たに20本の苗木の植樹を実施しました。



(2007年6月)

(2007年11月)

■ 事業所周辺の美化活動

各事業所では周辺のごみ拾い、草抜きなどの美化活動を実施しており、多くの従業員が参加しています。

一斉清掃実施日

- 徳島工場 …… 5月31日
- 高岡工場 …… 5月9日、10月13日
- 大分ケミカル …… 5月25日



徳島工場周辺清掃(5月) 高岡工場周辺清掃(10月) 大分ケミカル周辺清掃(5月)

■ スポーツ活動支援

東亜合成グループの各工場では、体育館やグラウンドを開放し、また当社主催のソフトボール大会やバレーボール大会を開催するなど、地域のスポーツ活動を支援しています。

2007年は、名古屋工場の天白グラウンドにおいて7月1日に「第18回東亜旗女子ソフトボール大会」を開催し、7チームの参加がありました。また、同工場体育館では6月19日・20日、11月7日・14日にそれぞれ第68回、第69回「東亜杯ママさんバレーボール大会」を開催しま

「四万十川源流クリーン作戦」(坂出工場)

坂出工場では、「源流クリーン作戦」を継続しています。10回目となる2007年は四万十川の源流周辺のごみ拾いを実施しました。



(2007年5月)

■ 笑顔であいさつ運動

高岡工場では「笑顔であいさつ運動」に取り組んでいます。2007年も昨年に続き、地域貢献としてあいさつの輪を地域に広げていくために、この運動で使用している社内用ポスターをアレンジして地域の消防署や小学校に贈呈しました。



「笑顔であいさつポスター」を小学校に贈呈



小学校に寄贈したポスター



ママさんバレー大会(名古屋工場) ママさんバレー大会(徳島工場)

■ 工場見学会と出張理科実験教室

東亜合成グループの各工場において、周辺地域の住人の方々や学生、児童の見学(訪問)を積極的に受け入れています。2007年は6月・11月・12月に高岡工場、古府小学校の児童を対象に工場見学会を行いました。

8月には徳島工場で北島中学校の生徒の訪問を受け、「排水はどのように処理しているか」など、環境問題についてのインタビューに答えました。

また、7月に高岡工場が古府小学校に出張し、東亜合成の製品・技術を使った理科の実験教室を行いました。



工場見学会(高岡工場)

中学生訪問インタビュー(徳島工場)

出張理科実験教室(古府小学校)

■ 地域行事への参加

東亜合成グループでは、拠点所在地の行事に積極的に参加しています。2007年の主な取り組みは以下の通りです。

- 徳島工場では、3月中旬に日赤献血センターへ献血場所を提供し、社員のボランティアで献血を行いました。
- 徳島工場は、例年通り8月中旬に「阿波踊り」に参加しました。
- 名古屋支店は、10月初旬に名古屋市科学館「青少年のための科学の祭典」に参加し、アロンアルフア®を使って「メタル昆虫」を作る工作教室を開催しました。



献血活動(徳島工場)



名古屋市科学館での工作教室(名古屋支店)



阿波踊りへの参加(徳島工場)

■ 第3回ChETシンポジウムに参加

10月6日、名古屋大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにおいて、化学工学会東海支部第3回ChETシンポジウムが開催され、TOAエンジニアリング(株)プロセス技術センター員が「技術開発からプラント建設

工事まで」というテーマで講演を行いました。



学生のポスターセッション

● 地域の大学での講演

TOAエンジニアリング(株) 新庄真人さん

ChETとはChemical Engineering in Tokaiの略であり、東海地区に在学中の化学工学会学生会員によって構成されています。その活動であるChETシンポジウムは、招致した企業の講演と学生会員のポスターセッションで構成されており、今回の企業講演では「化学系企業の現場の話が聞きたい」という学生の要望を受け、技術・研究関連の講演に決まりました。

体験談を踏まえながら、プラント設計および建設の業務の流れ、大学での研究と企業業務の違い等を盛り込んで講

演しました。発表はかなり緊張しましたが、これから就職活動を行う学生に参考にしていただけたようで、盛んにメモを取っている人もいました。

この講演を通じて東亜合成グループに興味を持ってもらえたと思います。これからもしっかりと経験を積み、またこのような機会があれば一層面白く興味深い講演ができればと思います。



講演の様子

株主・投資家とのかかわり

東亜合成グループでは、株主・投資家との関係を大切にしています。アナリスト向け決算説明会を年2回開催しているほか、2007年度は日経IRフェアに出展するなど、投資家の方々と交流を図っています。また、情報取扱責任部署であるIR広報室では、適時適切な情報開示に努めています。

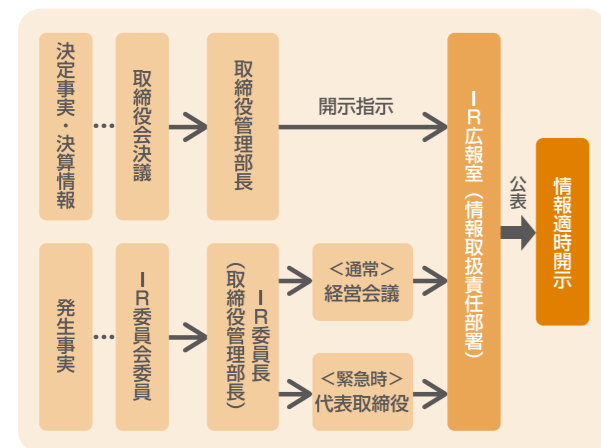
■ 情報開示の考え方

東亜合成は以下のような社内体制により、スピーディーかつ適切な情報開示に努めています。

IR委員会は取締役管理部長を委員長とし、委員長が選任する者を委員としています。各委員は、自己の担当する業務情報のうち投資家に提供すべき情報を委員会に報告することになっています。

取締役管理部長は決定事実・決算情報については機

■ 会社情報の適時開示にかかわる体制図



関決定後遅滞なく、発生事実については発生後遅滞なく開示を行います。

管理部の下には、情報取扱責任部署でありIR委員会の事務局であるIR広報室を設置し、適時開示情報伝達システム(TDnet)の利用等により適時開示を行っています。

また、アナリスト向け決算説明会の実施(中間決算後の8月、本決算後の2月)、アニュアルレポート発行、ホームページ掲載IR資料の充実など投資家への積極的な情報開示を行っています。



ホームページのIR資料
アニュアルレポート

WEB 当社ホームページもご覧ください。
<http://www.toagosei.co.jp/ir/index.html>

■ IRイベントに出展

東亜合成は2007年8月31日、9月1日の両日、東京ビッグサイトで開催されたIRイベント「日経IRフェア2007ストックワールド」(日本経済新聞社主催)に出展しました。このイベントは、100社余りの上場企業や証券会社、証券取引所が集結した日本最大級の個人投資家向けIRイベントで、約1万5千人の来場がありました。

当社ブースでは、東亜合成グループの事業概要、連結財務ハイライト、国内・海外展開や研究開発、環境への取り組み、新事業の推進状況などを巨大パネルとパンフレットで紹介しました。個別製品の紹介では、「アロンアルファ®EXTRA®シリーズ」のプロモーション映像の放映、銀系無機抗菌剤「ノバロン®」を内容物とする洗濯物・洗濯機用の除菌商品やアロン化成が手掛ける介護製品の展示を行いました。また、次世代を担う製品として、当社が開発した電解質膜を搭載した直接メタノール形燃料電池で動作させたDVDプレーヤーで映像を放映

し、好評を得ました。アンケートにお答えいただいた方も1,900名に上り、投資家の方々に当社グループの事業についてご理解いただく上で有意義なIR活動となりました。今後とも、投資家の方々と直に触れ合える機会を大切にしていきたいと思います。



日経IRフェア

取引先とのかかわり

原材料等の購入に際しては、事前に環境負荷物質に関する調査を行うなど、グリーン調達への取り組みを進めています。

■ グリーン調達

東亜合成では、原材料の取引先に対して、諸調査のほかに品質・環境活動状況調査表による選定を実施しています。この調査表により取引先の品質保証体制、環境管理体制、物質管理体制を確認します。例えば、原材料については、環境負荷物質管理として、JGPSSI(グリーン調達調査共通化協議会)のリストにある物質を含む原材料を使用しないことなどを要求しています。

個々の原材料仕様書においては、GHS対応製品安全データシート(MSDS)、環境負荷物質不使用保証書、製品にかかわる国内外の法律・指針・規則等の確認、RoHS指令に適合することをはじめとする、対象禁止化学物質を含有していないことを徹底しています。

また、プラントの設計、機器の選定にあたっては、省エネルギータイプの機器を優先的に採用するなど環境に配慮した購買を進めてきました。

これまでグリーン調達に必要な基盤を構築し、取引先とのコミュニケーションをレベルアップしてきましたが、今後は調達方針や基準を明確にし、体制を強化していきます。



環境負荷物質
不使用保証書

RoHS指令
保証書

■ RC方針の伝達・共有

東亜合成は、協力事業所、輸送業者などの請負業者に対して企業理念、RC方針・目標を周知し、RC活動の推進についての指導、支援を行っています。

また、各請負業者においては、パトロールの実施、安全会議の開催、新人教育等の取り組みを実施しています。

特に、輸送業者に対しては、荷主の責任において、製品輸送にかかわる安全管理体制の整備と運転手への安全教育の強化、省資源、省エネルギー運転の徹底、エラーカードやMSDSの再教育、全員参加の緊急時訓練の実施などを指導しています。

Voice

物流部門のRC活動推進に向けて

東亜合成(株) 業務部
SCM物流グループリーダー

横山 俊二



SCM物流グループでは、東亜物流(株)とともに関係者全員に安全の徹底を図るため各種教育・研修を行っています。さらに、輸送関連各社と合同で定期的な訓練も行っています。また、製品輸送時に、万一の事故などが発生した場合、緊急に対応する「東亜合成危機管理基本マニュアル」および「緊急連絡網」を定めています。

この度、関係会社との物流の合理化および情報交換のため、東亜グループ物流部会を発足させましたが、その部会においてもRC活動の推進を積極的に行う所存です。

東亜合成グループでは、人権に配慮した公平・公正な採用・配置・処遇を行っています。

■ 人権保護の取り組み

人権尊重

東亜合成グループでは、経営理念の中で「人を大切にする企業」を明記するとともに、コンプライアンス委員会規程第一条において「すべて東亜合成グループの役員は、法令を遵守し、基本的人権を尊重して、誠実に行動しなければならない」と定めています。本年度からスタートしている中期経営計画「ALL TOA 2010」の中では、従業員を会社の財産との意味合いから「人材」として人事施策を行うことを盛り込んでいます。

人権を尊重することは当然のこと、従業員一人ひとりが当社グループの活力の担い手としてその個性と能力を発揮し、いきいきと活躍できる環境づくりを行っています。

セクシュアルハラスメント対策

東亜合成では、就業規則にセクシュアルハラスメントの禁止を明記し、社員全員に周知するとともに、その防止に向けた以下の啓蒙活動を実施しています。また、社外・社内にコンプライアンス・ホットラインを設け、通報者および個人情報を保護しつつ速やかな対応を図るようにしています。

- ① 電子メールで啓蒙資料「職場におけるセクシュアルハラスメント防止について」を配付しています。
- ② 社内報にセクシュアルハラスメント防止の啓蒙記事を掲載しています。
- ③ 相談、苦情の窓口として各事業所人事担当課および各事業所労働組合を指定しています。
- ④ 就業規則（第3章第14条：禁止の定義、第11章第97条：賞罰の対象に設定）において規定しています。

■ 雇用制度の充実

障がい者雇用

東亜合成グループでは、障がい者の方々の自立を支援するため、障がい者の雇用拡大に努めています。2007年ではグループ全体で24名の障がい者の方々が働いており、そのうち10名が重度の障がいを持つ方々でした。

ただし、東亜合成の2007年の障がい者雇用率は1.79%で、法定雇用率の1.8%を若干下回る結果となりました。このため、引き続き障がい者の就業機会の創出に向けた職場環境の整備を進め、雇用促進に努めていきます。

■ 障がい者雇用率の推移（東亜合成）

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
1.88%	1.67%	1.73%	1.74%	1.79%

高齢者雇用

東亜合成グループは、2006年4月の改正高齢者雇用安定法施行以前から一部で定年者の再雇用を行ってまいりましたが、同法施行後にグループ全体で定年者再雇用制度を導入しました。2007年の定年退職後再雇用在籍者人数はグループ全体で71名となっています。

再雇用においては、社員が長年培ってきた技術、ノウハウを事業に活かしていくとともに、社員それぞれの希

望に応じた形での定年後の豊かな生活の実現に結び付くことを目指しています。

■ 定年退職後雇用在籍者数（東亜合成グループ）

2006年	2007年
54名	71名

男女雇用機会均等

東亜合成グループでは、男女を問わず、募集・採用、配置、昇進、研修などについて広く均等な機会が得られ、かつ社員がやりがいを持って意欲的に働けるよう、以下のような職場環境の整備に取り組んでいます。

- ① 募集・採用においては、性別にかかわらず職種で応募者を募り、応募者の希望と当社のニーズが相互に合致することを目指した人材採用を行っています。
- ② 配置についても性別による処遇の格差をなくし、本人の能力と適性に合わせた配置を行っています。なお、人材の有効活用のため、毎年秋に自己申告書の提出を実施（義務付け）ています。
- ③ 昇進については従来から当社独自の選抜研修制度を有しており、性別にかかわらず職務遂行能力と実績に基づいた公平・公正な昇進審査を行っています。

■ 就業支援制度の充実

育児・介護に関する支援

東亜合成グループでは、多様なバックグラウンドを持つ社員が、育児や介護をはじめとする生活と両立できる形で、仕事においても自らの能力を発揮し、キャリア形成を図ることができる環境づくりを進めてきました。1992年から育児休業制度と介護休業制度をスタートさせ、改正育児休業・介護休業法施行に伴い、2005年に両制度を改正しました。2007年の育児休業と介護休業の適用件数はグループ全体で16件でした。

今後もさまざまな観点から仕事と家庭生活の両立を支援していきます。

1. 育児休業制度の概要

- 原則1年、待機児童のケースなどは1年6ヵ月を限度に取得可能。
- その他、短時間勤務取り扱いあり。また、休業期間中は無給だが、育児理由の解職を禁止。

2. 介護休業制度の概要

- 対象家族1人につき通算休業日数263日の範囲で要介護状態ごとに取得可能。
- 要介護状態ごとに介護休業が終了するまで連続して取得可能。なお、介護休業開始後3ヵ月以内の期間は通算20日以内の休業を分割取得可能。
- その他、短時間勤務取り扱いあり。また、休業期間中は無給だが、介護理由の解職を禁止。

■ 育児休業・介護休業制度の適用件数推移（東亜合成グループ）

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
8件	8件	10件	8件	16件

フレックス制と裁量労働制の導入

東亜合成およびグループ会社の一部は、社員がその生活と業務の調和を図りながら、効率的に働くことができるようにフレックスタイム勤務制度と裁量労働制度を導入しています。フレックスタイム勤務制度は、設定されたコアタイム以外の時間帯において、あらかじめ上長の承認を得た上で勤務時間を融通できるもので、1996年から導入しています。また、裁量労働制度は、業務の進め方や時間配分、始業・終業の時間などを本人の裁量に委ね、労使であらかじめ定めた時間を働いたものとみな

す制度（みなし労働時間）で、2006年に導入しました。

東亜合成グループでは、社員一人ひとりが新しいことにチャレンジし、最大限の力を発揮、成長することのできる環境づくりに努めています。

メンタルヘルスケア

メンタルヘルスケアについては、メンタル不全者を発生させない職場の整備と早期発見・治療を目指し、外部専門医療機関と提携して2006年から東亜合成グループとして次のような施策を実施しています。

- ストレスチェックの実施（全従業員対象）
- 管理職研修の実施（メンタルヘルス対策の必要性、実践的対応法）
- 健康相談ホットラインの整備（産業医・カウンセラーとの面談やインターネット・電話による相談体制の強化）



新任管理職メンタルヘルス研修

Voice 貴重な日々を過ごしています

東亜ビジネスアソシエイト(株) シェアードサービス事業部 財務グループ



濱野 美香

妊娠中は早期復職することを考えていましたが、上司の方々が快く長期の育児休暇制度を助めてくださり、現在は育児に専念させていただいております。おかげで念願の母乳育児を続けることができ、子供の成長を間近で感じられる貴重な日々を過ごしています。

長期間業務から離れてしまったこと、復職後の育児との両立については不安を感じますが、会社や家族の支援、協力を得ながら頑張っていきたいと思っております。

■ 人材育成

人材育成プログラム・力量マネジメント

東亜合成グループは、社員育成を効果的に押し進めるべく、2008年度より力量マネジメントシステムを骨格とした人材育成プログラムを推進しています。力量マネジメントシステムでは、各職務や職位の職務能力基準を明らかにし、個々の社員のレベル評価、能力開発目標の設定、実行といったプロセスを効率的かつ継続的に実施します。人材育成プログラムでは、社員の能力開発目標の達成に資する研修や課題をOJT、OFF-JT、自己啓発の三本柱で展開します。これらの制度を実施・運用していくことで、当社グループのたゆみなき体質改善、時代を先取りする技術やビジネスを切り拓く「人づくり」を進めていきます。

主な研修

- 新入社員研修
- 1年目研修
- グループ1.5年目フォローアップ研修
- 2年目研修
- グループ3年目フォローアップ研修
- グループ8年目フォローアップ研修
- グループ中堅社員研修
- グループマネジメント研修新任主査研修 など

自己啓発・キャリア形成支援(通信教育助成制度)

幅広い知識の習得と能力の向上を図り業務のレベルアップを目指すこと、社員個人のキャリア形成を支援することを目的とし、東亜合成グループ社員を対象に通信教育助成制度を設けています。通信教育のカテゴリーも、語学、経理・財務、マーケティング、資格取得、IT・パソコンといったものから総合的なビジネスリーダー養成プログラムまで、豊富なラインアップを取り揃えています。修了後には助成金を支給することとしており、全社員に幅広く活用されています。



通信教育講座案内冊子

自己申告制度・社内公募制度

東亜合成では、社員の適正配置の推進、士気の高揚、および自己啓発の支援を図ることを目的として「自己申告制度」を設けています。また、特定の能力、資格など

を要する職務を対象として、広く社内から人材を募集する「社内人材公募制度」も制定しています。

提案表彰制度

東亜合成では、個々の社員のさまざまな創意工夫やアイデアなどを吸い上げ、社員の自己実現と職場の改良・改善の促進を図るため「提案制度」を設けています。また、優秀な提案に対しては、審査委員会を経て「表彰制度」で表彰されます。これらを通じて社員の活性化と業務改善の推進を継続的に進めています。

2007年度東亜合成一般表彰実績

- 優秀賞 6件 … 16名が受賞
- 優良賞 3件 … 11名が受賞

国内外留学制度

東亜合成では、事業環境のグローバル化に対応する人材を育成するため、海外の大学院、研究機関に社員を派遣する「海外研究生/研修生制度」、次世代リーダー育成を目指した「国内MBA研修生制度」などを実施しています。

Voice 「海外留学」

東亜合成(株) 経営企画部
経営企画グループ
大和田 顕一



2004年2月から約1年半にわたり、海外研修生としてアメリカのミシガン大学ビジネススクールに通わせていただきました。こちらでは、国籍や年齢、キャリアもさまざまな生徒と一緒に授業を受け、大きな刺激を受けました。ファイナンス(財務)を中心にビジネス全般について学習しましたが、プログラムは理論的な学習だけでなく、その知識をいかに活用するかに重点が置かれています。通常の授業もケーススタディが中心で、MAPと呼ばれるコンサルティング実習にも参加しました。ここで得た貴重な経験を今後の業務にも活かしていきたいと考えています。

■ 採用活動

東亜合成では、「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念に共感し、活躍できる人材を求めています。化学メーカーとして、さまざまな事業や職種があり、多様な社員が活躍しております。その中で求める人材の共通項をあげると、将来に向けての構想を持ち、その実現に向けて行動できる人になります。このような求める人材が活躍できる風土が、東亜合成にはあります。たとえ新入社員であっても、自分の任されている仕事に関して、大きな権限が与えられます。このような風土や与えられる権限を生かして活躍できる人材であれば、積極的に採用して

ります。

採用活動においては、性別、人種、信条等で差別することなく、公平・公正な採用活動を行っております。具体的には、新卒採用におけるセミナーなどを通じて、当社を説明し、東亜合成の求める人材を明らかにしております。多様な人材を求めるために、会社説明会の機会を増やすなど、より多くの方に東亜合成を理解していただけるようにしております。また、選考では面接を重視しており、学歴や過去の実績ではなく、東亜合成で活躍できる人物であるかを判断基準として面接を行っております。

■ 労使のコミュニケーション

簡易経営会議および労働協議会

東亜合成グループの労働組合は、東亜合成労働組合、アロン化成労働組合、鶴見曹達労働組合等、各社別に組織されていますが、オブザーバーを含め8労働組合で東亜合成関連企業労働組合連合会を結成しています。そして、「会社と労働組合は、互いに労働権および経営権を尊重し、相互に民主化を図り、社業の健全な発展と組合員の地位の向上を目指す」という基本的な考え方のもとで、グループ会社全体あるいは各社ごとに、労働協議会や経営協議会などの協議会を定期的もしくは必要の都度、開催して、経営上の課題や事業の見直しに伴う労働条件の検討課題等について労使協議を行っています。

東亜合成の場合は、人事・労務関係諸制度を含め、春季交渉の時期のみならず通年にわたり頻繁な意見交換を行うことで、労使関係の円滑化と社員の満足度を高め、企業経営に好ましい影響を与えるように努めています。



グループ経営協議会

社会貢献委員会

東亜合成グループでは、献血活動、花の植栽やごみ拾いなどの美化活動を日頃から行っています。東亜合成では、労使共同による社会貢献委員会を全社レベル・事業所レベルで設け、積極的な活動を推進しています。会社と組合が折半で出資したボランティア基金を設置し、労使による社会貢献活動への資金提供や各種社会福祉団体への寄付を行っています。2007年度は能登沖地震災害義援金の拠出や財団法人日本ユニセフ協会への寄付を実施しました。

現在の主な社会貢献活動

- 森づくり活動(徳島県が進める自然林の再生を目的とした活動への参加)
- 清掃活動(吉野川・四万十川の清掃活動、工場周辺の草抜き・ごみ拾いなど)
- 古切手回収活動(換金可能な使用済み切手・カードを収集し社会福祉団体へ寄贈)
- スポーツ支援活動(各工場の体育館やグラウンドを開放し、地域のスポーツ活動を支援)
- 笑顔であいさつ運動(高岡工場の笑顔であいさつ運動の社内用ポスターを近隣の小学校やJRに贈呈)
- さわやかウォーク(名古屋南区社会福祉協議会の主催により障がい者と市民とのふれあいの場として毎年開催)への参加(介助やごみ分別を通しての交流)

東亜合成グループでは、継続的な改善を進めるためのシステムを整え、効果的な運用を図っています。

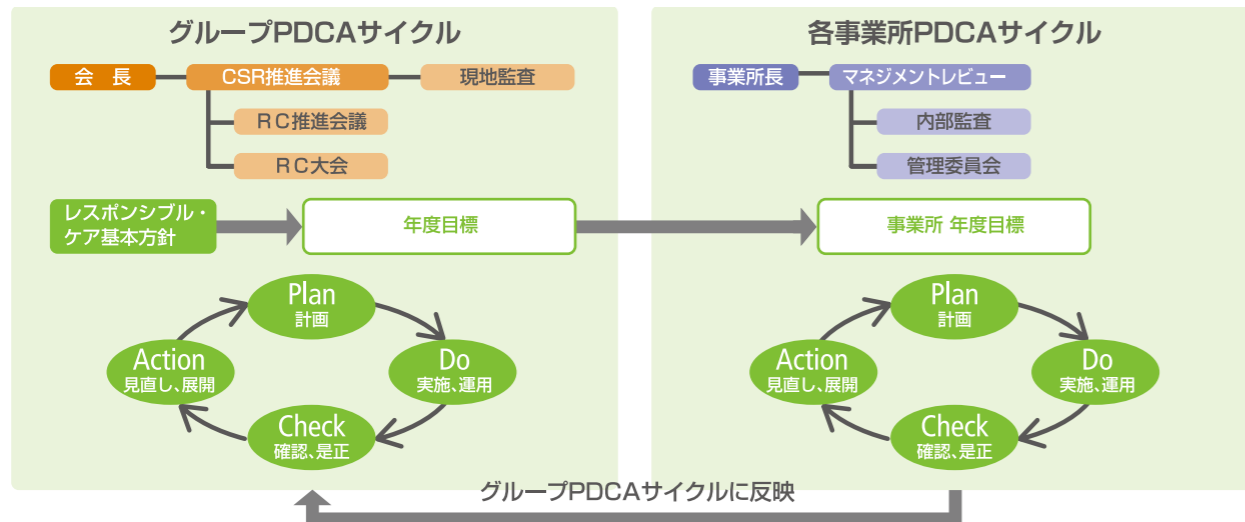
RC推進体制

東亜合成グループでは、レスポンシブル・ケア（RC）基本方針に則り、ISO環境・品質マネジメントシステムの改善の仕組み（P・D・C・Aサイクル）を効果的に運営することで、継続的な取り組みを進めています。

体制の概要としては、各社各事業所において全社方針・目標を踏まえた上で具体的なおよび実行計画を設定

し、活動の推進、振り返りを行う仕組みとしています。また、グループ全体として、各社各事業所の活動状況、方針・目標の達成状況を総括的に把握し、今後の展開を図っていくための仕組みとして、現地監査、RC推進会議、ならびにCSR推進会議の機会を設け、確実に運営しています。

継続的改善の仕組み



レスポンシブル・ケア推進組織の機能・活動

【グループPDCAサイクル】

- CSR推進会議**
グループ全体のCSRへの取り組み状況を振り返り、方針・目標・計画等を審議・決定する最高意思決定機関であり、RCに際してもこの中で審議・決定を行います。
- 現地監査**
CSR推進会議の開催に先立ち、議長より委嘱された監査責任者が各社各事業所のCSRへの取り組み状況を現地で確認するもので、監査の結果をCSR推進会議で報告します。
- RC推進会議**
各社各事業所におけるRC活動の状況を総括的に振り返り、次年度のRC活動の展開について議論する会議体です。
- RC大会**
グループ各社が一同に会し、RC活動の体験事例紹介、グループ討議等を行うもので、グループ全体として活動のレベルアップを図るものです。

【各事業所PDCAサイクル】

- マネジメントレビュー**
マネジメントシステムの有効性を確保し、継続的な改善を進めるために、各事業所長が主催し、見直しを行う会議です。
- 内部監査**
マネジメントシステムが確実に運用されているか、また、効果的に実施されているかを客観的に評価するもので、監査の結果はマネジメントレビューにおいて報告します。
- 管理委員会**
マネジメントシステムの維持・改善を目的とした審議機関で、各事業所の環境/品質管理責任者が主催する会議体です。

現地監査および結果

東亜合成グループでは、監査計画に基づき、各事業所のRC活動の状況をチェックし、必要な指示、指導を行っています。また一方で、監査で抽出した優れた活動については他の事業所に紹介し、グループ全体の活動のレベルアップにもつなげています。

昨年度の監査においては、全般の活動状況に加えて、

安全面では墜落・薬傷災害の防止、環境面では法規制の遵守状況、また品質面では異物混入防止対策の状況を重点監査項目に取り上げ、詳細の確認を行いました。

なお、監査の結果、法規制にかかわるような重大な欠点は認められませんでした。

ISO14001/ISO9001 認証取得状況

東亜合成グループにおけるISO14001の認証取得状況は下表の通りです。

更新審査を受審し、システムの有効性の確保と運用の改善につなげています。

各事業所においては毎年、審査登録機関による維持/

ISO14001/ISO9001認証取得状況

	認証機関	ISO9001		ISO14001	
		取得日	認証番号	取得日	認証番号
東亜合成 本社・支店・営業所、名古屋工場、 徳島工場、高岡工場、坂出工場	ビューローベリタス	1995年12月27日	170112	1998年12月27日	166976
大分ケミカル					
アロン化成 本店	(財)日本品質保証機構(JQA)	—	—	2002年4月5日	JQA-EM2319
アロン化成 関東工場	(財)日本品質保証機構(JQA)	—	—	2000年6月23日	JQA-EM0913
アロン化成 名古屋工場	(財)日本品質保証機構(JQA)	1999年2月19日	JQA-3063	—	—
アロン化成 尾道工場	(財)日本品質保証機構(JQA)	2001年12月28日	JQA-QM7613	—	—
鶴見曹達	(財)日本規格協会(JSA)	1999年7月1日	JSAQ520	2003年3月14日 (本社工場・営業)	JSAE626
日本純薬	(財)日本品質保証機構(JQA)	2000年8月4日	JQA-QM5112	2005年11月11日	JQA-EM5003
アロンエバグループ・リミテッド 神奈川工場	ビューローベリタス	2006年12月7日	244466	2005年12月27日	181019

オール東亜RC大会

オール東亜RC大会は東亜合成グループ各社が一同に会し、各事業所における安全・環境・品質活動についての取り組み事例の発表、グループ討議などを行うもので、毎年1回開催しています。

2007年6月に開催した大会には約100名が参加し、情報の共有化および活動の水平展開、ならびに相互刺激による意識高揚を図りました。



オール東亜RC大会

RC教育

東亜合成グループでは、「人材」育成を目的とした教育計画の中にRCにかかわるカリキュラムを盛り込み、教育を推進しています。

教育の内容は、RC活動の意義、関連法規制の理解、化学物質の適切な取り扱い、環境保全への取り組み、品質管理の進め方、ISOシステムの運用など、多岐にわたっています。



RC教育（環境保全）

地域社会の信頼をさらに高めるよう、
コミュニケーションの充実を進めています。

■ 公害防止協定の締結状況

東亜合成グループでは、コンプライアンスを重視した経営を推し進める中で、環境に関しても法規制の遵守を基本とした事業活動を実践しています。

また、各社各事業所では、県、市町村と公害防止協定を締結し、行政、地域社会と一体となった環境管理を行っています。

■ 公害防止協定の締結状況

工場	公害防止協定等締結行政機関
東亜合成 名古屋工場	名古屋市
東亜合成 徳島工場	徳島県、徳島市、北島町
東亜合成 高岡工場	高岡市
アロン化成 関東工場	茨城県
アロン化成 名古屋工場	東海市
アロン化成 滋賀工場	滋賀県、高島市
アロン化成 尾道工場	尾道市
鶴見曹達 本社工場	横浜市
日本純薬 広野工場	広野町
日本純薬 高岡工場	高岡市
大分ケミカル 大分工場	大分県、大分市

■ 環境関連情報公開

2006年12月に東亜合成 名古屋工場で検出された土壌・地下水汚染については、名古屋市条例に基づき、情

報を公開するとともに、市の指導のもとに対策を進めています。

■ 地域とのコミュニケーション

東亜合成グループの環境保全に対する取り組み状況は、この「CSR報告書」で報告しているほか、ホームページでも情報を公開しています。

WEB 当社ホームページもご覧ください。

<http://www.toagosei.co.jp/csr/index.html>

■ 最近の地域対話参加実績

	内容	工場
2004年2月	第4回大分地区レスポンスブル・ケア地域対話	大分ケミカル
2005年3月	第2回愛知地区レスポンスブル・ケア地域対話	名古屋工場
2006年2月	第3回富山・高岡地区レスポンスブル・ケア地域対話	高岡工場
2006年2月	第5回大分地区レスポンスブル・ケア地域対話	大分ケミカル
2007年2月	第3回愛知地区レスポンスブル・ケア地域対話	名古屋工場
2008年2月	第6回大分地区レスポンスブル・ケア地域対話	大分ケミカル
2008年3月	第4回富山・高岡地区レスポンスブル・ケア地域対話	高岡工場

■ 事故・苦情情報

2007年に地域住民の皆さま、行政から受け付けた苦情は次の2件であり、原因の調査および再発防止対策等の措置は完了しています。

また、2007年に発生した爆発・火災等の事故はありませんでした。

今後も地域住民の皆さまからの声を真摯に受け止め、誠意をもって対応していきます。

■ 発生件数と内容

発生場所	発生日	内容
大分ケミカル 大分工場	2007年1月16日	容器への移液時に液漏れを起こし、その臭気について近隣住民の方から苦情がありました。
東亜合成 高岡工場	2007年8月28日	活性汚泥処理設備の汚泥を移動させた際に腐敗臭が発生し、近隣住民の方から苦情がありました。



RC地域対話 富山・高岡地区

環境の保全に向けた積極的な投資を行い、その効果の確認に努めています。

■ 投資額・費用額と効果

東亜合成グループでは、環境活動にかかわるコストとその効果を把握し、より効率的な環境保全活動を行うために2000年より環境会計を導入しています。また、環境への取り組み姿勢を理解していただくために、その

内容をステークホルダーの皆さまへ公表してきました。2007年は17億円の投資をかけて大気汚染物質および環境負荷物質の削減、省エネルギーなどに取り組みました。

集計対象範囲	東亜合成グループ
集計対象期間	2007年1月1日から2007年12月31日
集計方法	①環境省環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に、当社の「算出ルール」で集計しました。 ②環境保全目的以外のコストを含む複合コストについても、環境への影響度に応じて按分し、環境コストとして集計しています。 ③投資額は予算金額、費用額は実績金額を集計しました。 ④効果を明確に算出できるものについては、貨幣単位、物量単位で算出しました。ただし、リスク回避や見なし効果など定量化が困難な効果は含めていません。

■ コスト分類別環境投資額・費用額

環境保全コスト分類	2007年	
	投資額(百万円)	費用額(百万円)
(1) 事業エリア内コスト	1,442	5,162
① 公害防止コスト	984	4,163
主な取り組み内容		
大気汚染防止(酸性雨防止を含む)のためのコスト	416	2,311
水質汚濁防止のためのコスト	389	1,334
② 地球環境保全コスト	160	144
主な取り組み内容		
地球温暖化防止および省エネルギーのためのコスト	156	117
③ 資源循環コスト	298	855
主な取り組み内容		
資源の効率的利用のためのコスト	72	127
産業廃棄物のリサイクル等のためのコスト	190	5
(2) 上・下流コスト*	10	16
(3) 管理活動コスト	46	460
主な取り組み内容		
環境マネジメントシステムの整備、運用のためのコスト	0	140
環境負荷の監視・測定のためのコスト	28	129
事業所および事業所周辺の自然保護、緑化、美化、景観保持等の環境改善対策のためのコスト	17	51
(4) 研究開発コスト	220	495
主な取り組み内容		
環境保全に資する製品等の研究開発コスト	201	311
(5) 社会活動コスト	0	80
主な取り組み内容		
事業所および事業所周辺を除く自然保護、緑化、美化、景観保持等の環境改善対策のコスト	0	18
環境保全を行う団体等に対する寄付、支援のためのコスト	0	25
地域住民の行う環境活動に対する支援および地域住民に対する情報提供等の各種の社会的取り組みのためのコスト	0	38
(6) 環境損傷対応コスト	0	61
主な取り組み内容		
自然修復のためのコスト	0	37
環境保全に関する損害賠償等のためのコスト	0	5
(7) その他環境保全に関連するコスト	29	106
合計	1,747	6,381

*上・下流コスト:生産・サービス活動に伴って、上流または下流で生じるコスト(グリーン購入など)

① 貨幣単位による効果

効果の種類	数量	効果
リサイクル有価物等の売却益	2,241トン	204百万円
エネルギー削減	4,881KL	250百万円

② 物量単位による効果(2006年との差)

効果の種類	物量単位
エネルギー使用量の削減	原油換算で4,881KL削減
CO ₂ 排出量の削減	27千トン削減
産業廃棄物(最終埋立処分量)	286トン削減

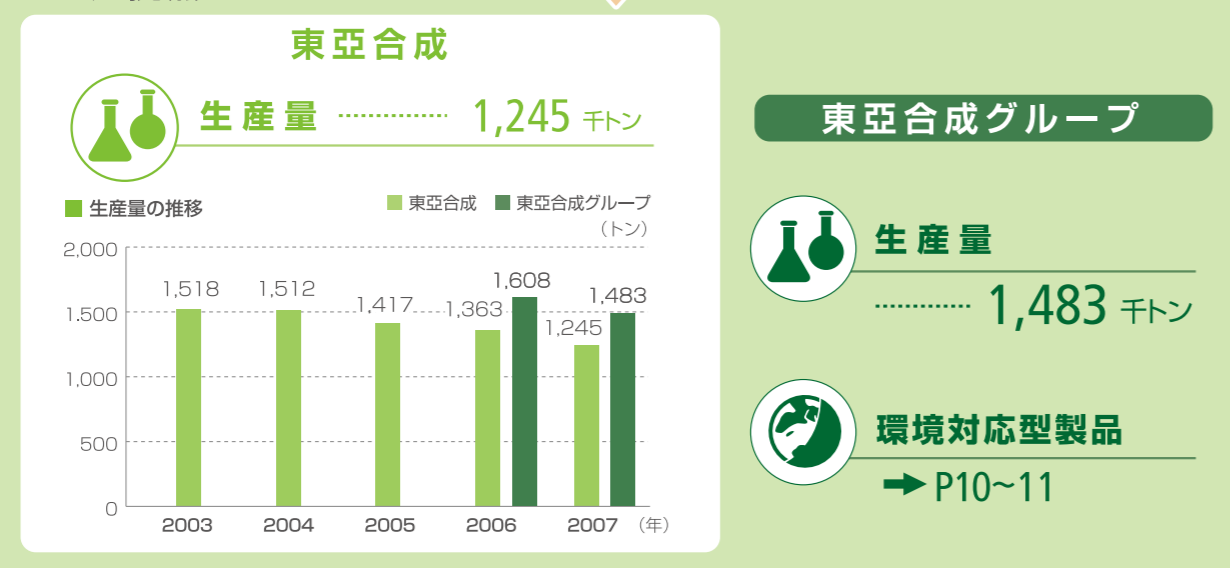
東亜合成グループの生産活動におけるマテリアルバランスは以下の通りです。

■ マテリアルバランス

■ INPUT



■ 生産拠点



■ OUTPUT



※なお、エネルギー原単位およびCO₂排出量原単位の計算には、エネルギー使用量の基準となる製品に換算した補正生産量を使用しています。
 ※集計対象範囲：P.43「事業所およびグループ会社のCSR活動紹介」に記載している製造に携わる会社・事業所
 ※集計期間：2007年1月1日～12月31日の1年間(化学物質の排出量については、2007年4月1日～2008年3月31日の1年間)

CO₂排出量の削減に向けて、製造、物流、事務所等、それぞれの部門で活動を展開しています。

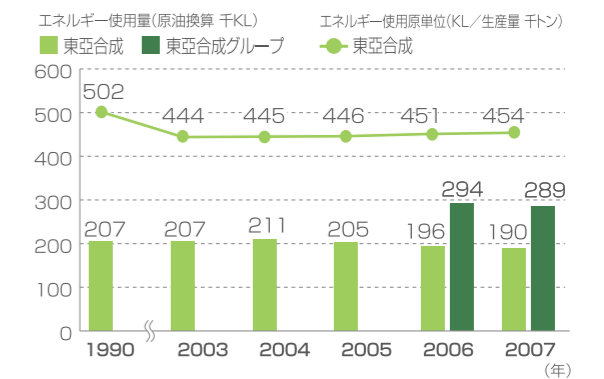
■ エネルギー使用量と低減対策

東亜合成グループでは、電力・化石燃料などのエネルギー使用量について、「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に基づいて、エネルギー使用原単位で対前年比1%低減することを目標に掲げ、省エネルギーを推進しています。

東亜合成グループ全体の省エネルギーの推進状況は、右のグラフの通りです。2007年は前年と比べてエネルギー使用量は原油換算で4,881KL減少し、1.7%低減しました。また、東亜合成単体の2007年のエネルギー使用原単位は生産量の減少などの影響により対前年比0.6%の増加となり、目標値には及びませんでした。2008年はエネルギー使用量(原油換算)の対前年

比2千KL低減を目標に掲げ、さらなるエネルギーの削減に取り組めます。

■ エネルギー使用量およびエネルギー使用原単位推移

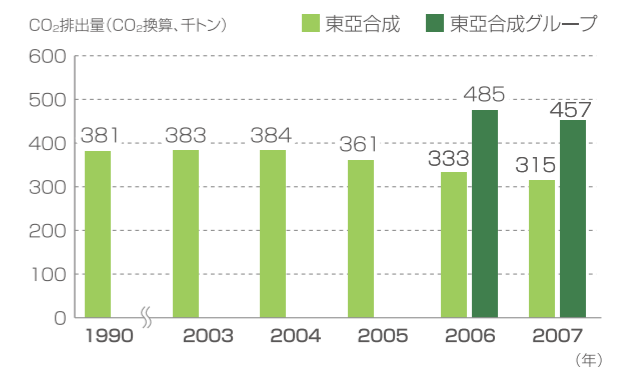


■ CO₂排出量と低減対策

地球温暖化防止を目的とした京都議定書の第一約束期間が2008年からスタートしました。東亜合成グループでは、省エネルギーの活動を通してCO₂の排出削減に努めています。

東亜合成グループ全体の2007年のCO₂排出量は、457千トンであり、前年と比較して27千トン削減(5.7%低減)することができました。また、東亜合成単体の2007年のCO₂排出量は、315千トンであり、前年と比較して19千トン削減(5.6%低減)することができました。東亜合成単体のCO₂排出量は、1990年と比較して17.5%減少しています。

■ CO₂排出量の推移



■ オフィスにおけるCO₂排出量削減

東亜合成グループでは、6～9月の期間に東亜合成の本支店・営業所を中心にCOOL BIZ(クールビズ)の取り組みを実施しています。クールビズとは地球温暖化対策の一環として、温室効果ガス削減のために、夏のエアコンの温度設定を28℃にしてもオフィスで快適に働けるためのビジネススタイルの名称です。

服装の軽装化と併せて昼休みの消灯を実施するなどこまめな節電を行い、従業員の省エネルギーに対する意識の向上を図っています。

■ 物流におけるCO₂排出量削減

東亜合成グループでは、製品の輸送にかかわるCO₂の排出削減に向けて、鉄道、船舶、車輜での輸送のそれぞれについて出荷ロットの大型化を図るとともに、ストックポイントの統合を進めるなど、より環境負荷の少ない製品輸送を目指して取り組みを進めています。

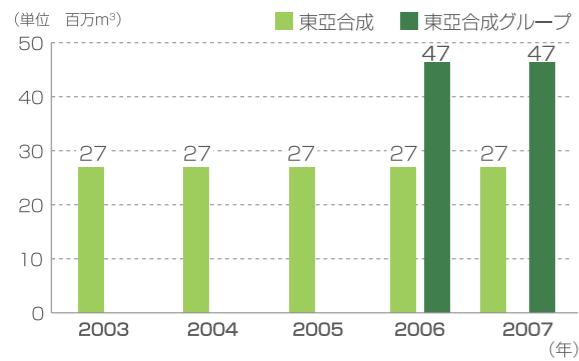
また、当社グループで「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」で定められた一定規模以上の荷主(特定荷主)に該当する企業については、2007年からエネルギー使用量等の報告と省エネルギーへの取り組み計画の提出を行っています。

水質、大気への負荷を低減すべく、排水、排ガスの管理を徹底しています。

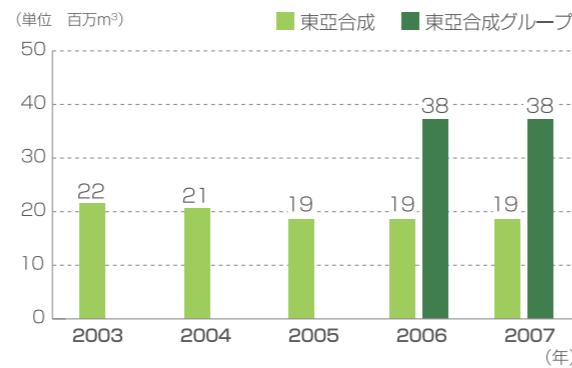
■ 水資源の有効利用

東亜合成グループでは、工業用水、地下水、上水道、海水を水資源として使用しています。これらの水も貴重な資源の1つであり、各工場ではプロセス内での循環使用など、水資源の節約に努めています。

■ 水利用量推移



■ 総排水量推移



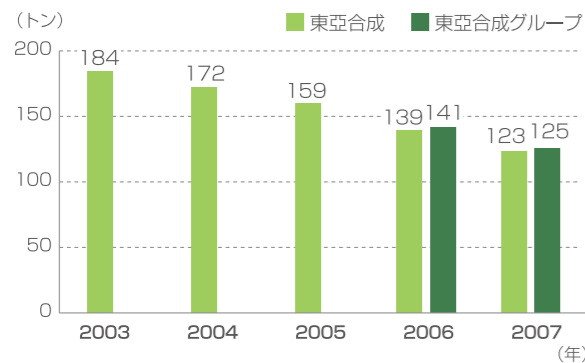
■ 水質の保全

東亜合成グループでは、排水中の化学的酸素要求量 (COD) について、国の排出基準および地域との協定に基づく規制値を遵守するための対策を進めており、規制値を大幅に下回っています。

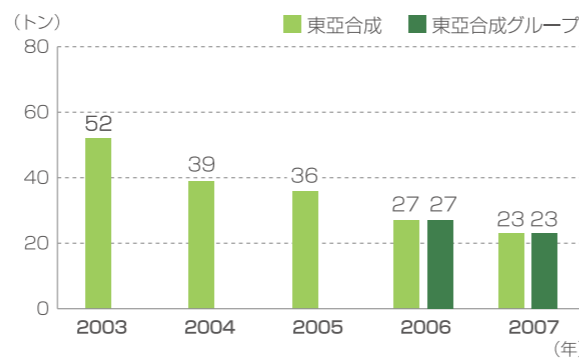
全窒素と全リンについては自動測定装置を設置し、排水の管理を徹底しています。

なお、「全窒素排出量推移」および「全リン排出量推移」のグラフについては、第5次総量規制の対象地域である名古屋工場および徳島工場の合計値です。

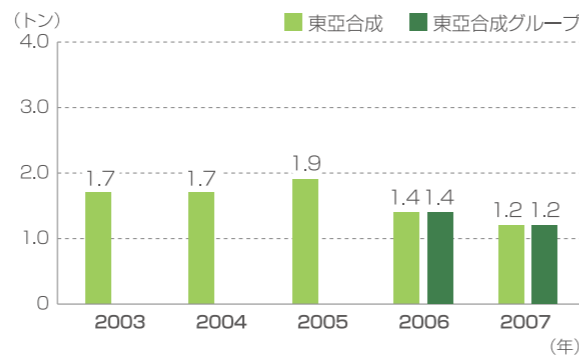
■ COD排出量推移



■ 全窒素排出量推移



■ 全リン排出量推移

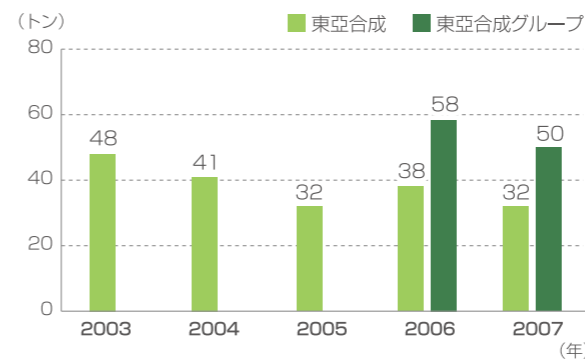


■ 大気の保全

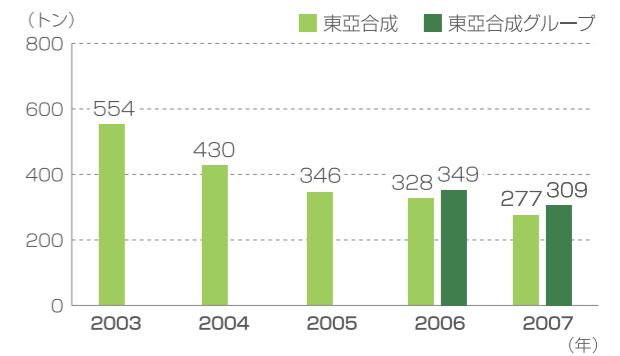
東亜合成グループでは、ボイラーなどから排出される硫黄酸化物 (SOx)、窒素酸化物 (NOx) およびばいじんについて、国の排出基準および地域との協定に基づく規制値を遵守し、環境への負荷を低減する取り組みを進めています。

ここ数年間の各物質の経年変化はグラフの通りです。2007年度もボイラーの燃焼効率および脱硫設備の管理の徹底などを継続し、SOx、NOxの排出量はさらに減少しました。

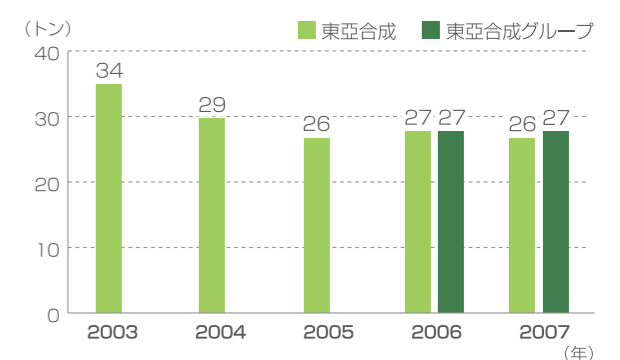
■ SOx排出量



■ NOx排出量



■ ばいじん排出量



Voice 大気管理の充実に向けて頑張っています

東亜合成株式会社
名古屋工場 化成品課

森田 善治



名古屋工場では、ボイラーから排出する硫黄酸化物 (SOx)、窒素酸化物 (NOx) およびばいじんについて、国の排出基準および名古屋市との協定に基づく規制値を遵守することを基本に、さ

らに環境への負荷を低減する取り組みを進めています。その一環として硫酸工場では反応設備について地道な改善を行い、硫黄酸化物 (SOx) の着実な削減に結び付けております。また、近年はヒートアイランドなどの影響により光化学スモッグが発生することがありますが、愛知県からの対策協力の連絡を受けて当工場ではボイラー運転の稼働制御などの対応に協力しています。

環境負荷低減への取り組み

■ 化学物質排出量削減

PRTR法の届出対象物質

「PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律）」では、化学物質を取り扱う事業者が、どれだけ化学物質を環境へ排出しているか、自ら把握して届け出るよう定めています。

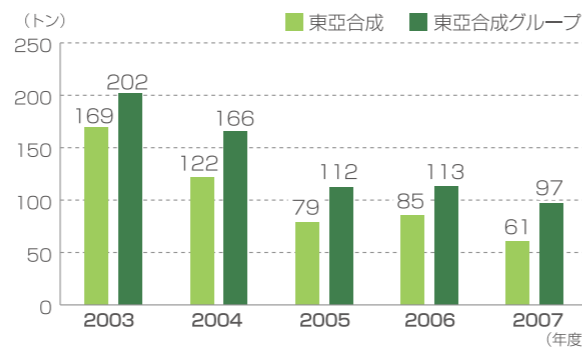
東亜合成グループでは、PRTR法該当物質について、その排出量を把握し排出量の削減に努めています。また、PRTR法に従い、2007年度排出量（2007年4月～2008年3月の期間）について、事業所ごとに各都道府県知事に届出を行いました。

日化協PRTR調査物質

東亜合成グループでは、社団法人日本化学工業協会（日化協）指定の調査対象480物質（PRTR法届出対象354物質を含む）についても、該当する物質の排出量を把握し、その削減に取り組んでいます。

2007年の日化協PRTR調査物質の水域への総排出量は下表の通りです。対象物質の使用量低減、除害設備の管理強化、化学物質の取り扱い管理の強化により1,2-ジクロロエタン、塩化ビニリデンなどの排出量削減に取り組んだ結果、東亜合成グループ全体で前年に比べて排出量を16.9トン（14.9%）削減しました。今後も、排出量の低減に向けた取り組みを継続していきます。

■ 日化協PRTR調査対象物質排出量の推移



■ 日化協PRTR調査対象物質排出量推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	対2006年度増減量	
東亜合成グループ	202	166	112	113	97	-16.9	
主な排出物質	1,2-ジクロロエタン	5.7	8.0	5.4	11.6	5.4	-6.2
	トリクロロエチレン	1.9	1.0	0.6	0.9	1.0	0.1
	クロロホルム	2.4	4.7	8.0	7.7	5.4	-2.3
	酸化エチレン	5.2	3.3	0.1	0.1	0.1	0
	塩化ビニリデン	38.6	21.3	3.0	9.0	5.0	-4.0
	塩化メチル	27.2	17.8	11.4	8.3	12.0	3.7
	トルエン	25.6	26.8	19.7	12.6	13.0	0.4
	n-ヘキサン*	11.7	1.2	2.6	-	-	-
	メタリクロライド*	8.0	8.7	15.4	14.7	6.4	-8.3
	メチレンクロライド*	11.0	11.0	12.0	12.0	12.4	0.4

*PRTR法届出対象外の物質

循環型社会への取り組み

Environmental & Safety Care

産業廃棄物の発生量を抑制するとともに、リサイクルを進め、最終的に埋立処分される廃棄物をゼロに近づけるよう取り組んでいます。

■ 産業廃棄物の排出量削減

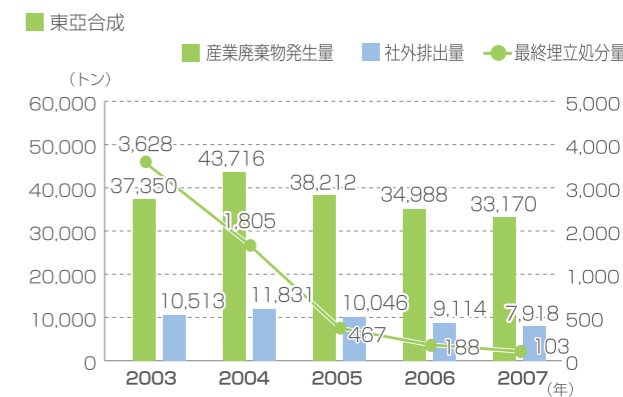
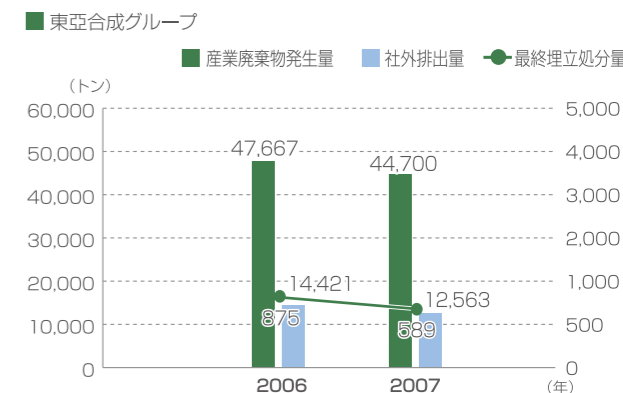
東亜合成グループでは、産業廃棄物の発生量の抑制と発生した廃棄物の分別・再資源化に取り組んでいます。

2007年の活動実績は右のグラフに示す通りで、東亜合成グループ全体で産業廃棄物の発生量を前年に比べて2,967トン削減することができました。また、社外排出量は1,858トン減少し、廃棄物の最終埋立処分率は前年の1.8%から1.3%まで低下しました。

東亜合成単体については、産業廃棄物の発生量は1,818トン減少し、社外排出量も1,196トンの減少となりました。また、下表に「工場における汚泥リサイクルの取り組み」の事例を示しますが、廃棄物の分別・リサイクルの強化にも精力的に取り組んでいます。その結果、廃棄物の最終埋立処分率は0.3%となり「ゼロエミッション*」目標を達成しました。

今後も循環型社会の実現を目指し、廃棄物の再利用およびリサイクルの推進に努め、グループ全体で「ゼロエミッション」を達成するように取り組んでいます。

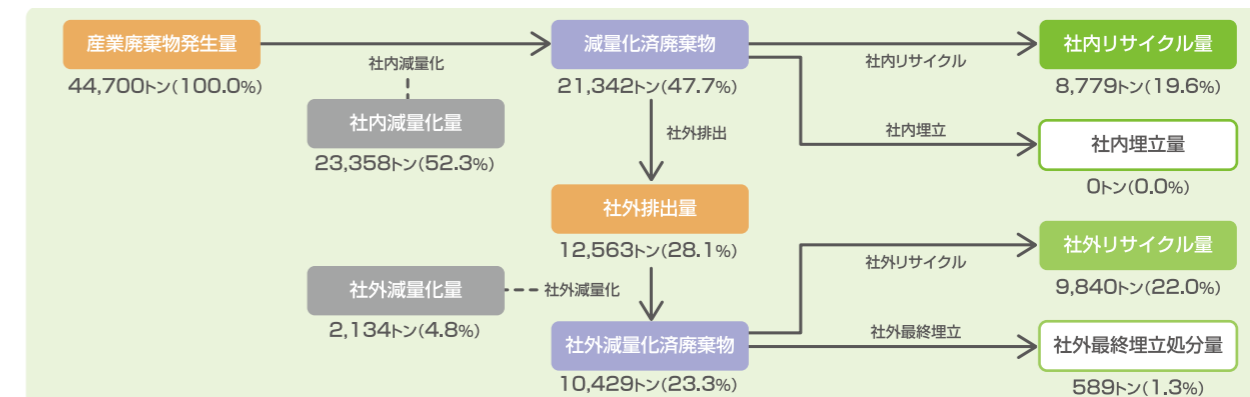
■ 産業廃棄物発生量、社外排出量および最終埋立処分量の推移



■ 汚泥リサイクルの取り組み

名古屋工場	食塩電解で発生する塩水マッドは再生土に、アクリルポリマースラッジは一部助燃料としてリサイクル
徳島工場	塩水マッド、排水マッドを道路路盤材としてリサイクル
高岡工場	無機性汚泥を再生土に、有機性汚泥は肥料としてリサイクル

■ 産業廃棄物フロー



*東亜合成グループでは廃棄物ゼロエミッションを「最終埋立処分量が産業廃棄物発生量の0.5%以下」と定義しています。

製品の製造工程、輸送工程における保安の確保は私たちの使命であり、安全面のチェック体制、防災体制の充実に取り組んでいます。

■ 保安防災への取り組み

基本的な考え方

RC基本方針のもとに安全方針として「無事故・無災害を最優先として、働く者と地域社会の安全を確保する」を掲げ、保安防災、労働安全衛生を他の課題に優先し、着実な取り組みを続けています。

防災専門会議

新製品を企業化する場合、生産方式あるいは設備を変更する場合などについては、「防災専門会議」を開催し、防災、労働安全、製品安全、製品品質の面からその計画内容を審議し、必要な指導を行う体制としています。

防災専門会議は、その規模、内容に応じて、「正規防災専門会議」「簡易防災専門会議」「防災検討担当者会議」の3段階に区別して開催しています。

2007年に開催した防災専門会議の件数は下表の通りです。

■ 防災専門会議実施件数

正規防災専門会議	4件
簡易防災専門会議	11件
防災検討担当者会議	86件

防災訓練

東亜合成グループの各事業所では、防災体制を整備し、定期的に防災訓練を実施しています。訓練に際しては所轄消防署に立ち会いいただき、指導を仰ぐなど、体制の充実に努めています。

また、行政および各種加盟団体が主催する防災訓練にも積極的に参加しています。



徳島工場

高岡工場

■ 製品輸送時の安全管理

事故発生時の相互援助体制

東亜合成グループでは、製品輸送時に万一事故が発生した場合、事故・災害や環境汚染の拡大を最小限に抑えるために当社グループ間で相互に援助しあう体制を整えています。

イエローカードの整備と活用

東亜合成グループでは、製品の輸送にあたっては、製品ラベルに適正な取り扱い方法や注意事項を表示しています。

危険有害性の高い製品については、化学物質輸送時の事故に備えて、輸送関係者あるいは消防・警察署が事

故時取るべき処置や連絡・通報先を記載したイエローカード（緊急連絡カード）をローリーやトラックの運転手に常時携帯させ、事故時の迅速な処理に備えています。



イエローカード
(緊急連絡カード)

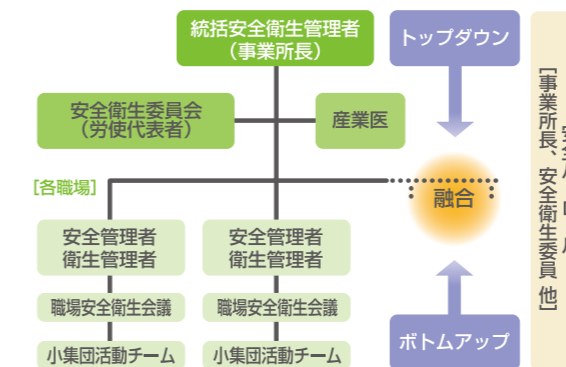
■ 安全衛生への取り組み

安全衛生管理体制

安全衛生管理の推進体制を整備し、休業災害ゼロを目指した安全活動を推進するとともに、作業環境の管理・改善、健康の増進についても取り組みを進めています。

各事業所においては事業所長をトップに安全衛生を管理する体制を整え、活動を推進しています。また、各職場においては小集団活動において安全への取り組みを精力的に展開しています。

■ 体制模式図



安全衛生委員会

労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会を効果的に運営し、災害事例をもとにした類似災害防止活動、健康増進策等について労使一体となった取り組みを進めています。

労働安全リスクアセスメント

東亜合成グループでは、以前から潜在危険箇所の抽出、提案活動などによる災害の未然防止活動を行っていましたが、よりシステムティックに危険要因を抽出し、そのリスクを客観的に評価し、リスクに応じた適切な対策を着実に推進するために、2007年から労働安全リスクアセスメント手法の導入を進めています。



労働安全リスクアセスメント講習

労働災害発生件数

東亜合成グループではゼロ災害に向けて、「休業災害ゼロ」を年度の目標に掲げ、2007年は特に重度災害につながる可能性の高い墜落災害、薬品との接触による災害の防止に重点的に取り組みました。

結果、残念ながら東亜合成グループおよび協力事業所全体で休業災害が計3件発生し、目標の達成には至りませんでした。

しかしながら、過去数年との比較では件数は減少しており、今後も一層、安全活動を充実し、グループ全体で災害の撲滅に取り組んでいきます。

■ 労働災害発生件数 (従業員)

	東亜合成		国内グループ企業		グループ計	
	休業災害	不休業災害	休業災害	不休業災害	休業災害	不休業災害
2000年	0	8	2	9	2	17
2001年	1	5	2	14	3	19
2002年	0	2	1	1	1	3
2003年	2	3	2	3	4	6
2004年	2	3	1	9	3	12
2005年	1	5	2	15	3	20
2006年	1	4	2	6	3	10
2007年	1	3	1	6	2	9

従業員の健康管理

定期健康診断を実施し、有所見者については健康指導を実施するなど、健康の維持・増進をサポートしています。

また、各事業所においては、メタボリックシンドローム対策、メンタルヘルスクアなどについて、外部講師による教育を実施しています。



「健康講話」徳島工場

製品を安全にご使用いただくために、化学物質のリスク評価と適切な情報の提供に努めています。

■ 化学物質の安全性管理体制

東亜合成では、製品の設計、製造開始に際し、化学物質の取り扱い、製品の安全性について防災専門会議で審議し、環境への影響低減、消費者の安全を確保する体制を整えています。また、その上で必要であれば製品安全性委員会を開催し、厳しく審査を行っています。

また、製品のラベル表示、カタログ等、消費者の安全にかかわる情報については製品カタログ等審査規程に基づき関係部署が審査を行い、厳しい管理を行っています。



製品カタログ等審査規程

■ 製品安全情報の充実

東亜合成グループでは製品を安全に使用していただくために、危険有害性情報、取り扱い上の注意事項など、必要な情報を製品安全データシート（MSDS）に適切にまとめ、消費者に提供しています。

また、2006年の労働安全衛生法の改正を受けて、表示対象物質にかかわる製品ラベルをGHS（化学品の分類・表示に関する世界調和システム）方式による表示に切り替えるとともに、MSDSについてもGHS方式を用いた記載内容に改訂を進めています。

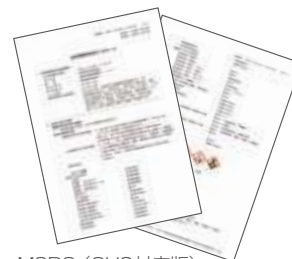
製品安全に係る海外の法規制についても、EUのRoHS指令（電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令）、REACH規制（化学物質の登録、

評価、認可および制限に関する規制）をはじめとする各種法規制に対し、お客様の要求を踏まえて的確な対応を進めています。

■ MSDS整備と活用



製品ラベル（GHS対応版）



MSDS（GHS対応版）

■ 化学物質の安全性情報充実への取り組み

国際的な取り組みとして、化学物質を安全に取り扱うためのリスク評価を進める動きが進められています。OECD（経済協力開発機構）では一国の生産量が1,000トンを超える既存化学物質を優先して危険有害性データを取得、評価するプロジェクト（HPV）が進められており、当社もICCA（国際化学工業協会協議会）、社団法人日本化学工業協会を通じて、この活動に参画しています。

また、ICCAの進める「化学物質のヒトの健康や環境への影響に関する長期的な自主研究（LRI：Long-Range Research Initiative）」についても支援を行っています。

さらに、国内においては官民が連携して既存化学物質の安全性情報を収集、発信するJapanチャレンジプログラムが行われており、当社はこのプログラムにも参加し、データの収集、整理に貢献しています。

TOAGOSEI

国内事業所

本店	①	
支店	②大阪支店	③名古屋支店
営業所	④北陸営業所	⑤四国営業所
	⑥福岡営業所	
工場	⑦名古屋工場	⑧徳島工場
	⑩坂出工場	⑨高岡工場
研究所	⑪名古屋研究機構	
	⑫先端科学研究所(茨城)	

関係会社 (国内の製造会社のみ)

- 1 アロン化成株式会社**
関東工場(茨城)、名古屋工場、滋賀工場、尾道工場
- 2 鶴見曹達株式会社**
本社工場(横浜)、徳島工場
- 3 日本純薬株式会社**
広野工場(福島)、高岡工場(富山)
- 4 大分ケミカル株式会社**
大分工場
- 5 アロンエバークリップ・リミテッド**
茨城工場、神奈川工場
- 6 MT アクアポリマー株式会社**
坂出工場

名古屋工場

工場概要

所在地 名古屋市港区昭和町17番地の23
工場長 執行役員 増田 紀之
従業員数 280名(2007年12月31日現在)
主な生産品目

- か性ソーダ、液体塩素、塩酸、過塩化鉄液、硫酸などの無機工業製品
- アクリル系モノマー、オリゴマー、ポリマーなどのアクリル系製品
- その他合成樹脂

工場長からのメッセージ

当工場は名古屋市南部の石油化学コンビナート区域に立地する化学品生産工場ですが、保安の確保と環境保全の推進は、地域と共生する工場としての運営基軸であり、かつ重要な社会的使命です。活動としては、全社のRC基本方針に基づき「地球温暖化防止の推進」「廃棄物削減・再資源化の推進」「PRTR調査対象物質の排出量削減」について自主管理目標を掲げ、全従業員一丸となって環境改善に取り組んでいます。2007年は廃棄物の再資源化や減容化に注力し、最終埋立処分量の大幅削減(前年比39%減)を達成しました。



名古屋工場長
増田 紀之

徳島工場

工場概要

所在地 徳島市川内町中島575番地の1
工場長 本間 日佐夫
従業員数 174名(2007年12月31日現在)
主な生産品目

- か性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ、液体塩素、塩酸などの無機工業製品
- トリクロロエチレン、パークロロエチレンなどの塩素系有機溶剤
- IXE[®]、ノバロン[®]などの機能性無機材料製品

工場長からのメッセージ

安全の確保と環境保全の推進は、化学製品を取り扱う工場としての社会的使命であり、地域社会との共生において基礎となるものです。
 当工場では、市街地化が進む工場立地の中で「①エネルギー使用量の削減、②廃棄物最終埋立処分量の削減、③環境負荷物質の削減」の3つを重点課題として、それぞれに高い数値目標を掲げ、社会と調和した環境保全活動に従業員一丸となって積極的に取り組んでいます。
 また、④として、2007年は地元の中学生との交流も行っており、さらに地域社会とのコミュニケーション強化についても取り組んでいきます。



徳島工場長
本間 日佐夫

高岡工場

■工場概要

所在地 富山県高岡市伏木二丁目1番3号
工場長 神林 富夫
従業員数 136名(2007年12月31日現在)
主な生産品目 ●アロンアルファ®などの機能性接着剤およびアロンメルトPES®などのホットメルト接着剤
 ●重炭酸カリ、ピロ燐酸カリなどの無機工業製品

■工場長からのメッセージ

環境の改善に努め、保安を確保して安定操業を維持し、地域との共生を図ることは、工場の社会的使命です。当工場は、瞬間接着剤「アロンアルファ®」をはじめとする高機能製品の生産工場として、より良い品質の製品を安定してお客様に提供できるよう新製品開発にも注力し、各種活動を通じて地域貢献に努めています。2007年は産業廃棄物10%削減の環境目標を掲げ、目標値以上の成果を上げました。引き続き、本年は「社外排出廃棄物量10%削減」「エネルギー原単位1%低減」と「地域に根ざした環境活動」を目標に掲げ、従業員全員が一丸となって環境改善活動に取り組んでいます。



高岡工場長
神林 富夫

坂出工場

■工場概要

所在地 坂出市昭和町二丁目4番1号
工場長 阿津地 稔
従業員数 32名(2007年12月31日現在)
主な生産品目 ●アクリル系高分子凝集剤、増粘剤

■工場長からのメッセージ

環境の改善に努め、保安の確保と安定操業を達成していくことは、工場が地域と共生し、生産活動を続けていく上での基本です。当工場は、排水処理用高分子凝集剤が主力製品であり、より良い製品を安定してお客様に供給することを通して、環境改善のお役に立つことに大きな誇りを感じています。2007年は、重点実施項目として、①省エネルギーの推進、②廃棄物の削減・再資源化の推進、③環境負荷物質排出量の削減を掲げて環境保全活動に取り組みました。3つの項目ともに目標を上回る低減を達成しています。今後も、ISO14001システムを活用し、従業員一丸となって、継続的かつ積極的な改善に努めていきます。



坂出工場長
阿津地 稔

日本純薬株式会社

■会社概要

設立 1944年10月19日
本店所在地 東京都港区西新橋一丁目14番1号
代表者 代表取締役社長 小野 憲彦
資本金 351百万円
従業員数 92名(2007年12月31日現在)
売上高 5,356百万円(2007年度)
工場 広野(福島県)、高岡(富山県)
事業内容 ●アクリル酸、アクリル酸エステル系合成樹脂および誘導体の製造販売
 ●高分子合成の受託業務

■社長からのメッセージ

当社は高機能・高付加価値のアクリルポリマーを中心とした製品を製造販売しており、医薬・化粧品・トイレットペーパー・電池・IT関連等の市場で広く利用されています。環境に対する取り組みについても、環境方針で「①高機能粉体ポリマー事業の拡大と充実 ②新規事業・新製品開発の推進(環境に優しい製品開発を進める) ③5S活動を通して全員参加で省エネ、廃棄物3R、環境負荷物質削減に努める ④環境目的、目標を設定し継続的な改善と予防に努め定期的に見直す ⑤法規制を遵守し地域社会と共生して事業の発展を図る」と定め、地域社会とともに環境を保全する姿勢を明確に表明し、活動しています。



代表取締役社長
小野 憲彦

大分ケミカル株式会社

■会社概要

設立 1983年10月
本店所在地 大分県大分市大字中ノ洲2番地
代表者 代表取締役社長 三品 博矢
資本金 450百万円
従業員数 33名(2007年12月31日現在)
事業内容 ●アクリル酸、アクロレインの製造販売
 ●メチルメルカプトプロピオンアルヒドの製造

■社長からのメッセージ

当社は、1984年に操業を開始、「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という東亜合成グループの企業理念のもと、「融和団結」「安全無事故」「合理化推進」を行動理念として活動し、創業以来、無事故・無災害を継続中です。また、2007年は東亜合成グループのISO認証に参加し、ISO14001を認証取得しました。
 RC基本方針「製品の開発から使用後の廃棄に至る過程のあらゆる段階において、製品安全、保安衛生、環境保全に配慮し、顧客、社会からの信頼性向上に努める」を柱に、全従業員一丸となってより一層社会の発展に努めてまいります。



代表取締役社長
三品 博矢

アロン化成株式会社

■会社概要

設立 1950年8月16日
本店所在地 東京都品川区東五反田一丁目22番1号 五反田ANビル
代表者 代表取締役社長 矢田 昭
資本金 4,220百万円
従業員数 534名(2008年3月31日現在)
売上高 31,807百万円(2007年度)
工場 関東(茨城県)、名古屋、滋賀、尾道
事業内容 ●プラスチック製品の製造・販売

■社長からのメッセージ

工場では産業廃棄物の排出量削減、廃棄物最終埋立量の削減、マテリアルリサイクルの推進、省エネルギー推進に引き続き取り組んでいます。また電力量の削減をねらって照明の省エネルギーに取り組まれました。さらに、その他工場設備では、成形機の更新に際してはインバータ設備を設置した機器を装備するなど省エネルギーの推進を行っています。その他のトピックスは次の通りです。
 ①関東工場および本店において、ISO14001の維持審査を受審、両事業所とも滞りなく完了しました。②再生PET使用の商品開発では、板材と加工品の販売を主要品目とし、生販一体として本格的に事業展開を推進しております。③「環境」をキーワードとした事業開発などに積極的に取り組んでおります。④2008年も昨年同様クールビズに取り組んでいます。



代表取締役社長
矢田 昭

鶴見曹達株式会社

■会社概要

設立 1934年5月21日
本店所在地 神奈川県横浜市鶴見区末広町一丁目7番地
代表者 代表取締役社長 高島 末司
資本金 2,080百万円
従業員数 217名(2007年12月31日現在)
売上高 16,450百万円(2007年度)
工場 本社工場(横浜市)、徳島工場
事業内容 ●か性ソーダ、塩素製品、水素系その他化学工業製品の製造販売

■社長からのメッセージ

私たち鶴見曹達は、有用で魅力ある化学製品の提供を通して快適な社会づくりに貢献することを企業理念として掲げています。
 当社は、すべてのステークホルダーにとって存在価値のある企業であり続けるよう企業の社会的責任(CSR)に積極的に取り組みます。
 昨年は、社長直轄の内部統制室を新設しコーポレート・ガバナンスを強化しました。
 これからも常に社会の皆さまと対話を重ねて調和しながらともに歩み、信頼と満足を得られるように努めてまいります。



代表取締役社長
高島 末司

アロンエバークリップ・リミテッド

■会社概要

設立 1998年9月
本店所在地 東京都港区西新橋一丁目14番1号
代表者 代表取締役社長 高橋 伸
資本金 223千ポンド
従業員数 66名(2007年12月31日現在)
工場 茨城工場(つくば市)、神奈川工場(秦野市)
事業内容 ●接着剤の製造販売

■社長からのメッセージ

当社は、茨城工場において溶剤系接着剤を、また神奈川工場においてはホットメルト型接着剤を製造し、建材、自動車、弱電分野向けに販売しております。製品開発、製造、販売の全活動において、環境保全と保安活動は、企業の社会に対する基本的義務として捉え、環境負荷の少ない製品開発、廃棄物削減およびリサイクル率の向上を促進する取り組みを推進するとともに、事故・災害防止対策を全社員に周知徹底する運動を展開しています。本年は、4VOC基準適合製品*の開発を推進し、住環境に優しい製品の拡販で社会貢献を目指すとともに、職場のリスクアセスメントを実施し、事故・災害の未然防止に努めます。



代表取締役社長
高橋 伸

*日本接着剤工業会の自主管理制度で、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの製品中の含有量を規定

第三者検証



「CSR報告書2008」
第三者検証 意見書

2008年7月22日

東亜合成 株式会社
代表取締役社長 橋本 太 殿

日本レスポンスブル・ケア協議会
検証評議会議長

山本明夫
レスポンスブル・ケア検証センター長

中田三郎

■ 検証の目的

レスポンスブル・ケア報告書検証は、東亜合成株式会社が作成した「CSR報告書2008」(以後、報告書と略す)を対象として、下記の事項について、レスポンスブル・ケア検証センターが化学業界の専門家の意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンスブル・ケア活動内容
- 4) 報告書の特徴

■ 検証の手順

- ・本社において、各サイト(事業所、工場)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示・説明を受けることにより行ないました。
- ・サイトにおいて、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び記載情報の正確性の調査を行いました。サイトの調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、資料提示・説明を受けること、並びに証拠物件との照合することにより行ないました。
- ・数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び高岡工場において、合理的な方法を採用しています。
 - ・調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性あるいは文章の分かり易さに関し、若干問題があることを指摘しましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) レスポンスブル・ケア活動内容について
 - ・グループ全体がレスポンスブル・ケア活動を推進しており、パフォーマンスの集計についても統一された方法で行われています。
 - ・ゼロエミッションおよび CO₂ 排出削減の取り組みは順調に推移しており評価します。今後も、グループ全体で成果をあげられることを期待します。
 - ・高岡工場では、環境・安全・品質・生産技術の4項目の現場への展開(活動計画、内部監査、工場長レビュー)が着実に進んでいること、10年間無災害など顕著な成果に結びついていることを評価します。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・本年度から「CSR報告書」に改称し、グループ全体の事業活動が見える内容としています。これはRCをCSRIに戦略的に組み込み、グループ全体としてCSR活動の充実に取り組んでいることを示しています。

以上

● 東亜合成の生い立ち ●

● 東亜合成は福澤桃介から始まった

東亜合成の歴史をさかのぼると、明治から昭和初期にかけて数多くの電力事業を立ち上げ、後に電力王といわれた実業家、福澤桃介にたどり着きます。そんな桃介が愛知県の矢作川に興した矢作水力(株)(現在の中部電力(株))の電力を有効利用し、硫酸や硝酸などを製造する目的で、1933年(昭和8年)、東亜合成の前身である矢作工業(株)が設立されました。



福澤桃介翁

● 東亜合成の誕生

その後、1937年(昭和12年)に日中戦争が勃発すると、一旦は矢作水力(株)に吸収されますが、第二次世界大戦下の1942年(昭和17年)、国家管理のもとで電力会社が統合されると、再び(第二次)矢作工業(株)として復活します。そして、戦時物資の増産を図るため、1944年(昭和19年)には、昭和曹達(株)・北海曹達(株)・レーヨン曹達(株)を吸収合併し、ここに東亜合成化学工業(株)が誕生します(1994年(平成6年)に、現在の東亜合成(株)に社名を変更しました)。



矢作工業全景

● アロンアルファ® 誕生

その後、1962年(昭和37年)に、わが国で初めてアクリル酸エステル工業化に成功し、アクリル事業への進出を果たすと、翌1963年(昭和38年)には、瞬間接着剤「アロンアルファ®」の開発にも成功します。その後も新しいグレードの開発を進め、1970年(昭和45年)には医療用アロンアルファ®、1971年(昭和46年)には一般家庭用アロンアルファ®の発売も始まり、今では世界中で愛される超ロングセラー商品に成長しています。



当時各地で行われたアロンアルファ®のPR活動